厚生労働省委託事業

令和４年度　がん総合相談に携わる者に対する研修事業

事業報告書

一般社団法人　日本サイコオンコロジー学会

令和５(2023)年３月

事業報告書　目次

Ⅰ．わが国のがん医療においてピア・サポートを広く推進するための提言……2

Ⅱ．事業総括……4

Ⅲ．ピア養成研修ワーキンググループ　報告……9

Ⅳ．短期サポートグループワーキンググループ　報告……11

Ⅴ．都道府県への支援……19

Ⅵ．がん患者に対するピア・サポート体制に関する都道府県調査……24

Ⅶ．がん患者に対するピア・サポート体制に関するがん診療連携拠点病院等への調査……33

Ⅷ．資料集……44
第４期がん対策推進基本計画（案）……45
がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針……46
がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場の例……48
がんサポートグループ企画運営者のための研修会 フライヤー……54

Ⅸ．委員会名簿……59

Ⅰ.わが国のがん医療においてピア・サポートを広く推進するための提言

ピア・サポートに関する現状調査並びにモデル研修の実施、各都道府県との意見交換で得た知見をもとに、がん医療におけるピア・サポートを推進し、全てのがん患者が、いつでもどこに居ても、安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現するために、第 4 期がん対策推進基本計画、がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針をふまえて以下を提言する。

各都道府県は、がん診療連携拠点病院等においてピア・サポートの活動を推進するために、改訂した研修プログラムに沿った研修を実施しピア・サポーターを養成すると共に、継続的な研修を行う教育体制や研修修了者を活用するマネジメント体制を整備することが重要である。体制の実現に際しては、都道府県が中心となり、計画を立て遂行することが求められる。

またがん診療連携拠点病院等は、ピア・サポート活動の意義を理解し、都道府県や各がん診療連携拠点病院等と協力して計画を立て、ピア・サポーター活動の支援を行うことが求められる。

【都道府県(自治体)に求められる活動】

- ピア・サポートの養成・活用計画を策定し実施するための協議体を設置する（新たな組織の設置または、都道府県がん診療連携協議会の相談支援部会や緩和ケア部会など既存の枠組みに役割を位置付けることでも良いと考える）。
- 都道府県がん対策推進計画において、ピア・サポーターの養成・活用計画を立案する。
- 活動を進めるための予算を確保する。
- がん診療連携拠点病院等と連携し、がん診療連携拠点病院や地域で開催されているピア・サポートや患者サロンに関する情報を収集し、ポータルサイト等を通じて発信するなど、がん患者・家族が希望する支援にたどり着けるよう取り組む。
- 患者サロンの活動について、都道府県内で情報共有の機会を設ける。

【都道府県(自治体)と協議体で具体的に検討し実施すること】

- 令和 5 年度に策定する都道府県がん対策推進計画へピア・サポート養成に関する事項を盛り込む(国の施策(第 4 期がん対策推進基本計画、がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針)との関連した計画の策定)。
- ピア・サポートの養成・活用を計画し運営する協議体を作り、以下の具体的な計画を立てる。
  (1) ピア・サポーターの活動の場の設置
  (2) ピア・サポーター養成研修を企画・開催

(3)がん診療連携拠点病院等での活用計画の策定
(4)登録制度、派遣を含めた活用制度、定期的な更新制度の構築
(5)継続的な研修(フォローアップ研修等)の企画・開催

【都道府県がん診療連携協議会が実施すること】

- 都道府県と都道府県がん診療連携拠点病院が中心的な役割を担い、他の地域がん診療拠点病院等はこれらの計画に、検討段階から主体的に参画する。
- 一定の研修を受けたピア・サポーターを活用する、もしくは十分な経験を持つ患者団体等と連携した患者サロン活動を各拠点病院が展開できるように、各拠点病院を支援する計画を立案し、実施する。
- 都道府県内のがんサロンの開催状況について、情報を収集し、拠点病院間で共有する。

【各がん診療連携拠点病院等が実施すること】

- 施設内においてピア・サポートや患者サロンを推進する部署・担当者を明確に定める。相談支援センターの相談員に加え、病院内で患者支援や心理社会的支援を担っている緩和ケアチーム等との協力体制を整える。
- 患者サロンを企画・運営する組織を院内に作る。
- 患者サロン活動やピア・サポート活動の計画を立てる。
- 一定の研修を受けたピア・サポーターや、十分な経験を持つ患者団体等と連携し患者サロンの企画・運営を行う。
- 実務担当者は、ピア・サポーターのスキルアップ、燃え尽き防止などを目的とした、活動ごとの振り返り・スーパーバイズの実施などの支援を行う。
- 院内での急ぎの対応のためのルート(精神科や緩和ケアチーム等との連携)を構築する。
- 院内スタッフを地域で開催されるピア・サポーター養成研修やフォローアップ研修会に派遣し、開催を支援する。
- 院内の患者サロンのピア・サポーターに対して、ピア・サポーター養成研修やフォローアップ研修への参加を促し、質の担保を図る。

※ピア・サポート：患者・経験者やその家族がピア（仲間）として体験を共有し、共に考えることで、患者や家族等を支援すること。

※患者サロン：医療機関や地域の集会場などで開かれる、患者や家族などが、がんのことを気軽に語り合う交流の場のこと。

Ⅱ.事業総括

改訂委員会委員長　小川　朝生
国立がん研究センター先端医療開発センター　精神腫瘍学開発分野

A．目的

ピア・サポートは、がんを含めた慢性疾患に対する基本的な心理社会的な支援の一形式である。

わが国のがん対策においては、平成 23-25 年度に、公益財団法人日本対がん協会が厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業」を受託し、ピア・サポートに必要な基本的なスキルを身につけるための研修プログラムを策定し、説明会の開催やホームページ等によりその周知を進めた。

しかし、平成28年に総務省ががん対策を評価したところ、平成27年度のピア・サポート研修の実施状況ならびに活動状況に関して、17都道府県、51がん診療連携拠点病院を対象に調査をしたところ、都道府県等においてピア・サポート研修が実施されていない状況や、拠点病院における相談支援や患者サロンへのピア・サポーターの受け入れが十分に進んでいない状況が確認された（平成28年9月総務省「がん対策に関する行政評価・監視結果報告書」）。

この報告を受けて、がん対策推進基本計画（第 3 期）では、ピア・サポートについて、国が作成した研修プログラムの活用状況に係る実態調査を行い、ピア・サポートが普及しない原因を分析し、研修内容の見直しやピア・サポートの普及を図ることが盛り込まれた。

本事業では、上記計画を受けて、平成30年度より基本計画に即して実施している。令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症流行が続くことにより、引き続き移動や会合が制限された。そのため、特に医療従事者を対象とした集合研修の開催が困難になる、各都道府県を訪問しての対面での意見交換の開催ができなくなるなど、さまざまな制限が持続する中での事業実施となった。

感染拡大の動向をみつつではあったものの、実施要綱に従い、

(1)医療・福祉関係者などの有識者やがん患者団体等の当事者による「研修プログラム改訂委員会」を設置し、前年度改訂したプログラムを使用した研修を実施する。また、地域ごとにニーズ把握・現状評価及び地域での取り組みの持続の可能性等の検証を行うとともに、必要に応じてプログラム等の改善を行う。

(2)委員会において検討された内容に基づく教材等を活用し、地域統括相談支援センターや患者サロンの開催等に協力するピア・サポーター等に対して研修等を実施する。また、都道府県がピア・サポーターの育成を目的とした研修を実施する際、都道府県に対する相談支援を実施する。

(3)情報提供、研修の周知や参加申し込み、必要資料の提供等を行うホームページを運用する。

ことを検討した。

B．経過

改訂委員会を設置し、課題整理を行い、以下の 4 点を検討・実施した。

- ピア・サポーター養成研修会の開催
- ニーズの把握及び各都道府県におけるピア・サポートに関する取組みの実態把握
- がん診療連携拠点病院等に向けたがんサロンのなかでサポートグループを開催するための研修プログラムの実施
- 情報提供等を行うホームページの運用

1.ピア・サポーター養成研修会の開催

本事業で改訂したピア・サポーター養成研修プログラムに基づく研修会を各都道府県で広げていくことを目標としている。しかし、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症流行のため、対面形式での養成研修会の開催が困難な状況が続いた。そのため、一昨年度にオンライン形式を取り入れた短縮版を開発し、動画等の資材を活用した養成研修会やフォローアップ研修会等を実施した。

(1)　ピア・サポーター養成研修会開催マニュアルのオンライン開催への対応

コロナ流行により研修会がオンラインで開催できるよう、オンライン開催に関連した留意点を追記した。

(2)フォローアップ研修プログラムの作成

フォローアップ研修の質の向上を目指して、ある程度ニーズの共通するプログラムを集約し、複数のプログラム案から選択できるような研修プログラムを作成した。

(3)各地の実情に応じたピア・サポーター養成、ならびにフォローアップ研修の実践

全国の都道府県にピア・サポート養成に関わるニーズを調査し、要望のあった都道府県に対し、当 WG からプログラムの提案、開催支援を行った。

1)香川県 ピア・サポーター養成研修会

令和４年10月８日(土)　香川県内のピア・サポーターへの研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施。ピア養成研修ワーキンググループ(以下WG)は講義・ロールプレイの進行を担当した。ピア・サポーター18名、医療従事者１名が参加した。

2)茨城県 ピア・サポーター養成研修会
令和４年12月26日(月)、茨城県内のピア・サポーターへの研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施。WG員が講義を担当した。ピア・サポーター12 名、講師 4 名、協力者 4 名 (ピア・サポーター)、行政３名が参加した。

(3) 栃木県　がんのピア・サポート基礎研修会
令和５年２月23日(木・祝)　、栃木県内のピア・サポーターへの研修として、講義、ロールプレイをオンライン形式で実施。WG員が講義・ロールプレイやグループワークを担当した。ピア・サポーター14名、医療従事者８名が参加した。

(4) 長崎県　ピア・サポーター養成研修・フォローアップ研修会
令和５年１月７日(土)　長崎県内のピア・サポーターへの研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施。WG員が講義・ロールプレイやグループワークを担当した。ピア・サポーター8 名、医療従事者13名が参加した。

2.ニーズ把握及び各都道府県におけるピア・サポートに関する取組みの実態把握
(1) ニーズ把握・現状評価及び地域での取組みの持続性の可能性等の検討
各地域で研修を実施しやすい仕組みの構築を目指し、ピア・サポーター等の研修について都道府県の取り組みに対する意見交換や講師の紹介、研修プログラム並びに研修テキスト等の提供を行った。
2022年５月に厚生労働省より各都道府県担当部署に対して案内を送付した後に、希望した都道府県と個別に支援内容を調整した。
今年度は２県に対して改訂委員会委員が出、都道府県担当者と、直接各県の取組みの現状ならびに課題に関しての意見交換をオンラインにて行った。
また計16県から希望を受け、研修テキスト並びにDVDの送付を行った。

(2) 行政・医療機関に向けたピア・サポートを推進するための情報提供資材の改訂
ピア・サポートの受け入れが進まない理由の一つに、行政や医療機関におけるピア・サポートへの認識が途上の点がある。これまでに行ってきた都道府県との意見交換、医療従事者向けの研修会をもとに開発したピア・サポートのマネジメントに関する情報提供資材の改訂を進めた。

(3) ピア・サポートに関するニーズ把握・現状評価
各都道府県におけるにピア・サポート研修や行政と医療機関の協力体制に関する現状を把握し、今後のピア・サポートの支援の拡充に活かすことを目的に、厚生労働省健康局がん・疾病対策課の協力を得て、各都道府県の担当部署に、現状調査を実施し、44都道府県より回答を得た。
その結果、都道府県がん対策推進基本計画でピア・サポートに関して目標を設置しているのは23都道府県(48.9%)であった。都道府県がん診療連携協議会等で定期的にピア・サポートに関する検討が行われているのは26都道府県(55.3%)であった。また、養成研修の内容をがん診療連携拠点病院と定期的に検討する機会を設定しているのは 11 都道府県(23.4%)であった。がん診療連携拠点病院内のがんサロン同士の連携や情報共有が定期的に行われているのは22都道府県(46.8%)であった。ピア・サポーター養成研修会が定期的に開催されているのは27都道府県(57.4%)であった。養成したピア・サポーターを対象に登録制度を取っているのは 21 都道府県(44.7%)、ピア・サポーター活動の調整を行っているのは17都道府県(36.2%)であった。登録されたピア・サポーターのマネジメントを担う部署等が決まっているのは21都道府県(42.6%)であった。
フォローアップ研修を定期的に開催しているのは20都道府県(42.6%)、活動する都度振り返りを行っている体制を整備しているのは18都道府県(38.3%)であった。
ピア・サポートの養成・活用には、行政と医療機関との密な連携が不可欠である。しかし、都道府県がん診療連携協議会のもとに、ピア・サポートの養成や継続研修、活用について定期的に検討する場をもつ都道府県は限られていた。今後、その必要性を明確にし、その地域のニーズに合った実施体制を組むことが重要である。あわせて、ピア・サポートの活動を推進するために、研修プログラムに沿った研修を実施すると共に、その後の継続的な研修を行う教育体制や研修修了者を活用するマネジメント体制についても構築する必要がある。

3.がん診療連携拠点病院等に向けたがんサロンのなかでサポートグループを開催するための研修プログラムの実施
本事業では、医療機関ごとに、それぞれのリソースを踏まえ、今後ピア・サポーターが安心して活動に携わることをできることを目的に、がんの相談支援に携わる医療従事者を対象とした「がんサポートグループ　企画・運営者のための研修会」プログラムを開発してきた。
がん患者に対する心理社会的支援の機会を整備するためには、この研修会の継続した開催が求められる。そこで本年度は、2 回の研修会を開催し、より多数の研修修了者を増やすことを目標に活動した。

本年度は、11 月 3 日（東京とオンライン）と 2 月 11 日（大阪とオンライン）の 2 回開催し、それぞれ 90 名のがん相談に携わる医療従事者を定員とした。事前登録者は、11 月 79 名、2 月 65 名であった。講義としては、がん患者に対する心理社会的支援の必要性や、がん患者に対する心理社会的支援の方法、ピア・サポーターとの協働について説明した。ここでは、サポートグループの必要性やピア・サポーターとの協働意識を強調し、さらにサポートグループは画一的なものでなく、多様なニーズに合わせた対応の重要性を指摘した。それから、がんサポートグループにおけるファシリテーションの実践として、相互作用を促すコミュニケーションスキルやファシリテーターの役割を確認し、情緒的サポートの基本姿勢を指摘した。その後、作成したファシリテーションの 6 場面の具体例を動画で供覧し、参加者同士で実際場面を想定したロールプレイやサポートグループを企画するディスカッションを行った。本講義内容は、「がんサポートプログラム企画の手引き」の内容を踏襲した。

2020 年度より合計 5 回開催し、374 名が修了した。昨年度に比べて本年度はレベルⅠの参加者が増えており、研修の裾野が広がってきたと考えられる。全国のがん診療連携拠点病院において、質の高い心理社会的支援が提供されるためには、さらに本研修会を開催し、受講していない病院などの医療従事者を対象としていく必要がある。さらに、これまでは新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン開催になっている。そのためサポートグループのファシリテーションの一部についてロールプレイで体験してもらう研修となっているが、対面開催が可能となれば、さらに幅広いスキルの獲得のための研修が可能となると考えている。

さらに、継続受講を希望する参加者も多かったことから、実際にサポートグループを運営して生じる課題などについて話し合ったり情報交換したりできる場の設定も今後の課題である。

4. 「がんサポートグループ　企画・運営者のための研修会」修了生を対象としたフォローアップ研修会の実施

令和 2 年度から令和 3 年度に開催した「がんサポートグループ　企画・運営者のための研修会」の修了者を対象に、フォローアップ研修会を実施した。11 月 23 日にオンラインで開催し、32 名が修了した。プログラムは 4 時間で、ピア・サポート好事例紹介、事例検討、情報交換の３つのパートから構成した。事例検討では、サポートグループにおいて生じうる難しい場面において、ファシリテーターとしてどのような対応するのかについてグループで話し合った。

5. 情報提供等を行うホームページの運用

昨年度に引き続き、情報提供や研修の周知を行うホームページを運用し、研修テキスト等の公開や、各種研修会、委員会や各ワーキンググループ活動の紹介を行った。

・「ピア・サポーター養成テキスト 2020 年度」「がんサポートプログラム企画の手引き 2020 年度」「ピア・サポーター養成研修会開催マニュアル」等の研修資材の公開
・平成 30 年度、令和元年度、令和 2 年度、令和 3 年度の事業報告書(PDF)の公開
・2022 年 11 月 3 日、2023 年 2 月 11 日実施「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」、2022 年 11 月 23 日実施「がんサポートグループ企画・運営者のためのフォローアップ研修会」の研修案内、申込ページの設置
・各会議、意見交換会、研修会等の活動紹介
・各種問い合わせへの対応

C. 考察

一昨年度来の新型コロナウイルス感染症流行による制約が加わる中で、各都道府県に対するピア・サポート養成と担当者との意見交換、がん診療連携拠点病院等に対してはサポートグループを開催するための研修会を開催した。また実施要綱に沿って、ピア・サポートに関する都道府県の実態把握を行った。上記活動を通して、わが国のがん医療において、ピア・サポートを推進する上で以下の取組みが求められる。

1. ピア・サポートの養成・活動に関する基盤を整備する必要性

ピア・サポートはがんサロン等がん診療連携拠点病院内で活動することが想定されており、その養成と活用にあたり行政と医療従事者とが協働して進める必要がある。しかし、

①都道府県のがん対策推進基本計画の中でピア・サポートに関する目標が設定されている都道府県は約半数にとどまっていること
②都道府県の中で行政と医療従事者がピア・サポートに関して検討する場を持っている都道府県が約 1/4 に限られていること

が明らかとなった。

がん診療連携拠点病院の整備指針には、「体験を語り合う場」の設置が義務づけられている。「体験を語り合う場」については、その検討の経緯まで踏まえないとセルフヘルプグループやサポートグループを想定していると解釈することが難しいため、本来の主旨が十分に周知されていない現状がある。がん診療連携拠点病院における心理社会的支援の整備の方向性を明確にし、適切な支援体制を確保する取組みも求められる。その方策として、がん診療連携拠点病院の整備に関する指針において、拠点病院内にピア・サポートを活用したセルフヘルプグループやサポートグループ等の配置を明確にするなど、推

進に向けた基盤整備が重要である。
　加えて、ピア・サポーターが活動をするうえで、相手を傷つけず、また自らの傷つきを防ぐためにも、精神心理的支援に関する基本的な知識を予め身につけておくことが重要になる。特に医療機関と連携してピア・サポート活動をする場合には、医療に関する問題には踏み込まないことや個人情報の扱い等についても確認する必要があり、事前の教育・研修は必須である。その点でも各都道府県において、行政と医療従事者が計画を策定し、議論する場を確保する重要性の認識が広まる必要がある。

2.新型コロナウイルス感染症流行下でのピア・サポート活動の推進
新型コロナウイルス感染症流行が長期化するなかで、がん患者・家族への心理社会的な負担は大きく増大している。特に社会的距離拡大戦略（ソーシャル・ディスタンス）の影響で、接する機会が減り、心理的・社会的な孤立を招いている。しかし、がん診療連携拠点病院等では、感染予防の観点から、院内でのピア・サポート活動に制限が続けられ、多くの拠点病院では活動が止まったままである。たしかに感染予防についての配慮は必要である一方、心理社会的支援が滞っている状態が長期化することによる患者・家族の不利益にも対応する必要がある。
　その中で、一部のがん診療連携拠点病院や都道府県において、オンラインでのピア・サポート活動を試みる所も出てきた。オンラインでの活動では、画面を通した間接的な交流であることから情緒的交流に限界はあるものの、物理的な距離にとらわれない長所がある。技術的な負担（特に高齢者ではセッティングの問題）、病院で実施するには個人情報の管理方法を定める必要性があるなど、対面形式にはない課題があるものの、AYA や働く世代を中心に時間や場所にとらわれずに広域から集合することができることから、活用範囲が拡大してきている。がん診療連携拠点病院や都道府県では、それぞれの長所を活かした支援の場を提供できる可能性がある。そのためにも、オンラインでのピア・サポート活動に関する情報を収集し、その実践を共有する取組みも求められる。

［意見交換会の実施］

	都道府県	日時	参加者
1	宮崎県	令和 4 年 8 月 29 日	県がん対策担当職員 2 名
2	高知県	令和 5 年 2 月 7 日	県がん対策担当職員 2 名

改訂委員会　会議記録

第 1 回　委員会
日時：令和 4 年 8 月 2 日　形式：オンライン開催
議事：
(1) 本年度の事業予定
(2) ピア養成研修 WG 活動方針
(3) 短期サポートグループ WG 活動方針
(4) 都道府県への支援について
(5) がん診療連携拠点病院向け　がん患者に対して提供できるピア・サポート体制の調査ついて

第 2 回　委員会
日時：令和 5 年 1 月 13 日　　形式：オンライン開催
議事：
(1) 開会挨拶
(2) 報告事項：ピア養成研修 WG 報告
(3) 報告事項：短期サポートグループ WG 報告
(4) 報告事項：都道府県への支援報告
(5) 報告事項：がん診療連携拠点病院向け　がん患者に対して提供できるピア・サポート体制の調査結果について
(6) 検討事項：事業報告書について

第3回　委員会
日時：令和5年3月7日　　形式：オンライン開催
議事：
(1) 開会挨拶
(2) 報告事項：ピア養成研修WG報告
(3) 報告事項：短期サポートグループWG報告
(4) 検討事項：事業報告書について

Ⅲ.ピア養成研修ワーキンググループ　報告

ピア養成研修ワーキンググループ長　秋月　伸哉
がん感染症センター　東京都立駒込病院　精神腫瘍科　・メンタルクリニック　部長

A. 目的

本WGの目的は、すべての都道府県で継続的に行え、実際の活動につなげることができるピア・サポーター養成プログラムを開発することである。2018年度には、ピア・サポーター研修プログラム、並びにピア・サポーター養成テキストを作成し、パイロット版の研修を実施、2019年度はピア・サポーター養成テキストの改訂、ピア・サポーター養成研修会運営マニュアルを作成し、三重県でプログラムに基づくピア・サポーター養成研修会を実施、2020年度はコロナ流行の状況に合わせ対面研修の時間を短縮できるよう講義動画の作成、短縮版ピア・サポーター養成研修会を開発し長崎県で実施、フォローアップ研修プログラムの提言を作成、2021年はオンライン版ピア・サポーター養成研修会開催マニュアルを作成、またフォローアップ研修プログラムを作成し、山形県、長崎県、栃木県で研修会を行った。

今年度は前年度の活動に引き続き、１.都道府県でのピア・サポート活動支援、２．都道府県でのピア・サポーター養成研修開催支援、３．都道府県でのフォローアップ研修開催支援を行うこととした。

B. 経過

1. 都道府県でのピア・サポート活動支援

各都道府県からピア・サポート活動支援の要請がなかった。コロナ流行が続く中、対面でのピア・サポートが十分開催されていないことが推察された。

2.都道府県でのピア・サポーター養成研修開催支援

香川県、茨城県、栃木県からの協力要請があり、プログラムの提供、開催支援を行った。

(1)香川県 ピア・サポーター養成研修会

令和4年10月8日(土)　香川県内のピア・サポーターへの研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施。当WGは講義・ロールプレイの進行を担当した。ピア・サポーター18名、医療従事者1名が参加した。

(2)茨城県 ピア・サポーター養成研修会

令和4年12月26日(月)　茨城県内のピア・サポーターへの研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施。当WG員が講義を担当した。ピア・サポーター12名、講師4名、協力者4名（ピア・サポーター)、行政3名が参加した。

(3) 栃木県がんのピア・サポート基礎研修会

令和5年2月23日(木・祝)　栃木県内のピア・サポーターへの研修として、講義、ロールプレイをオンライン形式で実施。当WG員が講義・ロールプレイやグループワークを担当した。ピア・サポーター14名、医療従事者8名が参加した。

3.都道府県でのフォローアップ研修開催支援

これまでに養成されたピア・サポーターへのフォローアップ研修に長崎県から協力要請があった。

(1)長崎県　ピア・サポーター養成研修・フォローアップ研修会

令和5年1月7日(土)　長崎県内のピア・サポーターへの研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施。当WG員が講義・ロールプレイやグループワークを担当した。ピア・サポーター8 名、医療従事者13名が参加した。院内でのピア・サポートを開催できていない病院が多く、養成後活動機会のないサポーターが認められた。

C. 考察

各都道府県の養成により、昨年までに開発されたピア・サポーター養成テキスト、プログラム、オンライン版プログラム、フォローアップ研修プログラムに基づき研修会を実施した。

3 県でピア・サポーター養成、フォローアップ研修を行ったが、これまで作成したプログラムを大きく修正することなく運用できた。オンライン開催についても参加者の接続環境など参加者側の機材的な問題を除けば支障なく開催できた。

一方、ピア・サポート活動支援の要請がないこと、研修を行った 3 県の医療機関でのピア・サポート活動の聴取結果からコロナ禍により多くの病院でピア・サポート活動が停止し、養成されたピア・サポーターを十分活用できていない状況がうかがわれた。

ピア養成研修ワーキンググループ　活動記録

第１回 WG 会議
日時：令和４年９月 15 日(水)
議事：
(1) 都道府県への支援について
(2) オンラインでの研修会実施について
(3) フォローアップ研修会　プログラムの作成について

第２回 WG 会議
日時：令和４年 12 月 15 日(水)
議事：長崎県・栃木県のピア・サポーター研修会のプログラム決定。役割分担、講義スライドの検討。

香川県 ピア・サポーター養成研修会
会場　　香川県庁（開催形式：対面）
日時　　令和４年 10 月７日(金)　19:00～20:00（研修前日打合せ）
　　令和４年 10 月８日(土)　10:00～16:00（研修当日）

茨城県 ピア・サポーター養成研修会
会場　　茨城県庁（開催形式：対面）
日時　　令和４年 12 月 26 日(月)　10:00～16:00

長崎県 ピア・サポーター養成研修・フォローアップ研修会
会場　　長崎県庁（開催形式：対面）
日時　　令和５年１月６日(金)　17:00～19:00（研修前日打合せ）
　　令和５年１月７日(土)　10:00～11:30（ピア・サポーター交流会）
　　令和５年１月７日(土)　13:00～17:00（研修）

栃木県がんのピア・サポート基礎研修会
会場　　栃木県庁（開催形式：オンライン）
日時　　令和５年２月 23 日(木)　18:00～20:00（研修前日打合せ）
　　令和５年２月 23 日(木)　13:00～18:00（研修）

Ⅳ.短期サポートグループワーキンググループ　報告

短期サポートグループワーキンググループ長　平井　啓
大阪大学大学院　人間科学研究科　准教授

A. 目的

がん患者を対象とした「サポートグループ」は、がん患者の情緒面や対処能力向上のための心理社会的支援の方法として世界の多くの医療施設において提供されている。日本でもがん診療連携拠点病院の要件において、がん相談支援センターに必要な機能として、「医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援」が求められている。ゆえに、実際、医療者が運営する構造化されたサポートグループ、あるいはピア・サポーターが中心となり運営されるピア・サポートプログラムなど、さまざまな取り組みが行われている。しかしすでに開催されているがんサロンやピア・サポーターによるサポートグループの運営上の課題解決や質向上を行うための体系的で簡便な資料がなく、これらの心理社会的支援の方法が十分に行われているとは言い難い。

そこで短期サポートグループワーキンググループは、これまで、さまざまな「サポートグループ」の運営に携わったメンバーにより、ピア・サポートを含む、さまざまな形や目的の「サポートグループ」に関して構造と機能の整理を行い、おもにがん診療を行う病院で勤務する、がん患者を対象としたサポートグループの企画・運営に携わる医療従事者を対象とした、「がんサポートプログラム企画の手引き」を作成し、さらにがんの相談支援に携わる医療従事者を対象とした「がんサポートグループ　企画・運営者のための研修会」を開発し、2020 年度から実施している。がん患者に対する心理社会的支援の機会を整備するためには、この研修会の継続した開催が求められる。そこで本年度は、2 回の研修会を開催し、さらに継続的な研修の機会を提供するためフォローアップ研修会を開催した。

B. 経過

本年度は、11 月 3 日（東京とオンライン）と 2 月 11 日（大阪とオンライン）の 2 回開催し、それぞれ 90 名のがん相談に携わる医療従事者を定員とした。本研修プログラムのねらいは、①サポートグループ・ピア・サポートについて理解しており（必要性や意義、方法について）②サポートグループのファシリテーションに関する基本的な技術を習得し、企画・運営することができる人材の養成である。

方法としては、参加者が事前課題として自施設のがんサポートグループについて評価し、研修会を受講する形をとった。その後、参加者の主観的変化を見るために事後評価アンケートを行った。

事前評価アンケートは、自身のプロフィール、自施設のがんサポートグループの構造や機能、自己の行動などの主観的評価をオンライン上の質問サイトにて尋ねた。

講義としては、がん患者に対する心理社会的支援の必要性や、がん患者に対する心理社会的支援の方法、ピア・サポーターとの協働について説明した。ここでは、サポートグループの必要性やピア・サポーターとの協働意識を強調し、さらにサポートグループは画一的なものでなく、多様なニーズに合わせた対応の重要性を指摘した。それから、がんサポートグループにおけるファシリテーションの実践として、相互作用を促すコミュニケーションスキルやファシリテーターの役割を確認し、情緒的サポートの基本姿勢を指摘した。その後、作成したファシリテーションの 6 場面の具体例を動画で供覧し、参加者同士で実際場面を想定したロールプレイやサポートグループを企画するディスカッションを行った。本講義内容は、「がんサポートグループ運営の手引き」「がんサポートプログラム企画の手引き」の内容を踏襲した。

事後評価アンケートは、事前評価アンケート同様にオンライン上の質問サイトにて、サポートグループの理解度やファシリテーターとしての効力感などを「非常にそう思う」「とてもそう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の 5 件法で、その他研修会に関する意見等を尋ねた。

フォローアップ研修会については、11 月 23 日にオンラインで開催した。研修プログラムのねらいは、これまでの研修会の参加者の要望などを踏まえ、①ピア・サポーターを活用した好事例について学ぶ、②難しい場面でのファシリテーションの方法について事例検討により学ぶ、③各施設での具体的な取り組みについての状況共有とネットワーキングとなった。プログラムは 4 時間で構成され、ピア・サポート好事例紹介、事例検討、情報交換の３つのパートから構成された。事例検討は、サポートグループにおいて生じうる難しい場面において、ファシリテーターとしてどのような対応するのかについてグループで話し合うものである。

C. 結果

事前登録者は、11 月 79 名、2 月 65 名であった。このうち事前評価アンケートのデータについてクラスター分析(ward 法)を行い、目標レベル分けを行ったところ、11 月の研修会でレベル設定を行ったもの

は 77 名であった。このうち、レベルⅠ:「ビギナー」「ピア・サポーター未導入で多様なニードへの対応が弱い」42 名、レベルⅡ:「多様なニードへの対応が弱い」「ピア・サポーター導入」17 名、レベルⅢ:「エキスパート」18名であった。2月の研修会では、61 名をレベル分けし、レベルⅠ:「ビギナー」「ピア・サポーター未導入で多様なニードへの対応が弱い」28 名、レベルⅡ:「多様なニードへの対応が弱い」「ピア・サポーター導入」24 名、レベルⅢ:「エキスパート」4 名であった。例年より、がん相談、SG 経験者が少ないが、研修後はすべての項目で平均値が有意に上昇した。特に「ファシリテーターの役割を理解」「ピア・サポーターとの協働の理解」「サポートグループ運営の自己効力感」は効果量が大きく、研修の目的が十分に達成された。さらにサポートグループの必要性とその効果、ピア・サポーターの重要性に関する知識、ピサポーターとの協働、サポートグループの課題改善の項目で効果量が大きく、研修の目的が十分に達成された。

またファシリテーションに関する評価の項目から、基本的なファシリテーションのスキルは実践を通して学習できたが、比較的高いスキルを求められる対応や、ピア・サポーターとの協働によるファシリテーションについて課題を感じているのは例年同様で、フォローアップ研修による継続的な学習を必要とする内容であった。研修全体ついての評価では、研修内容はわかりやすく、期待を満たすものであり、継続的な研修参加への強い要望もみられた。続くコロナ禍でオンライン研修に慣れた参加者が増加し、積極的に参加できているようであった。オンラインでもロールプレイ実践を通してスキルの習得ができ、また各施設の企画・運営の課題について話し合うことができたことを評価していた。自由記述の回答を分類したところ、良かった点としては、ロールプレイの経験、他施設との情報共有・取り組みを知る、実践の振り返り・エンパワメント、講義内容・ファシリテーターの存在、研修の構成・雰囲気、開催形式であった。一方で、改善点としては、研修時間がタイト、参加者同士の交流の機会、対面・オンラインでの参加による不具合、ロールプレイの長さなどであった。

フォローアップ研修会は、32 名の参加者（登録者は35名）であった。サポートグループ研修会終了後の各施設でのサポートグループの開催状況については、オンライン開催が45%、対面開催が26%、ハイブリッド開催が 3%、開催なしが 26%であった。サポートグループへのピア・サポーターの参加は、参加ありの施設が 55%であった。

フォローアップ研修後の自己評価では、サポートグループのレベルⅡからⅢのスキルについて十分に獲得されていた。研修全体についても有用性ならびに満足ともに高い評価となっていた。

D. 考察

「がんサポートグループ　企画・運営者のための研修会」は令和 2 年度から今年度までに合計 5 回開催し、374 名が修了している。昨年度に比べて本年度はレベルⅠの参加者が増えており、研修の裾野が広がってきたと考えられる。全国のがん診療連携拠点病院において、質の高い心理社会的支援が提供されるためには、さらに本研修会を開催し、受講していない病院などの医療従事者を対象としていく必要がある。さらに、これまでは新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン開催になっている。そのためサポートグループのファシリテーションの一部についてロールプレイで体験してもらう研修となっているが、対面開催が可能となれば、さらに幅広いスキルの獲得のための研修が可能となると考えている。さらに、継続受講を希望する参加者も多かったことから、実際にサポートグループを運営して生じる課題などについて話し合ったり情報交換したりできる場の設定も今後の課題である。

【「がんサポートグループ企画運営者のための研修会」修了者の人数】

		日程	形式	修了者
令和 2 年度	第 1 回	2021 年 2 月 11 日	オンライン	87 名
令和 3 年度	第 2 回	〃　11 月 3 日	ハイブリッド	82 名
	第 3 回	2022 年 2 月 11 日	オンライン	75 名
令和 4 年度	第 4 回	〃　11 月 3 日	ハイブリッド	77 名
	第 5 回	2023 年 2 月 11 日	ハイブリッド	53 名
			合計	374 名

【「がんサポートグループ企画運営者のためのフォローアップ研修会」修了者の人数】

		日程	形式	修了者
令和 4 年度	第 1 回	2022 年 11 月 23 日	オンライン	32 名
			合計	32 名

表 1. 研修会受講者の背景（2023 年 2 月 11 日）

申込み・事前アンケート回答状況

2023年1月26日18時時点
43/62名提出　69%回収

申込者の背景 (n=62)

1. 所属：

施設指定状況	名
国指定　がん診療連携拠点病院 （うち、小児がん診療拠点病院）	37 (1)
都道府県指定　がん診療病院	22
一般病院、クリニック	1
その他（病院以外）	2

所属部署（記載者n=42）	名
がん相談支援センター	18
地域連携・総合相談支援センター	10
看護部	5
病棟・外来	4
緩和ケアセンター・緩和ケア科	3
診療科	1
地域統括がん相談支援センター	1

2. 職種：

職種		名
看護師・保健師		30
	がん看護専門看護師 5	
	がん薬物療法認定看護師 3	
	緩和ケア認定看護師 1	
	がん性疼痛認定看護師 1	
	乳がん看護認定看護師 1	
	がん放射線療法認定看護師 1	
MSW・社会福祉士		24
心理職		6
医師		2

※看護師・MSW・心理職の方は看護師でカウント
※社会福祉士・作業療法士は社会福祉士でカウント

図 1. サポートグループの開催状況（2023 年 2 月 11 日）

3. がん相談支援センター配置状況

配置	名	配置	名
専従	16	兼任	17
専任	17	担当でない	12

4. サポートグループ関与状況

関与	名	関与	名
院内あり	37	院内・外あり	1
院外あり	12	関与なし	12

受講者の経験 (n=43)

1. 臨床経験　18.7年
2. がん相談経験　5.8年

3. サポートグループのファシリテーター経験
あり 18名　なし 27名

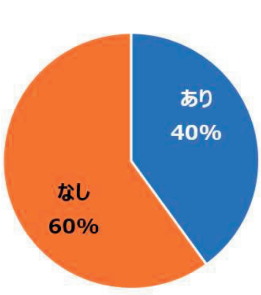
サポートグループの開催内容 (n=53)

1. 開催頻度

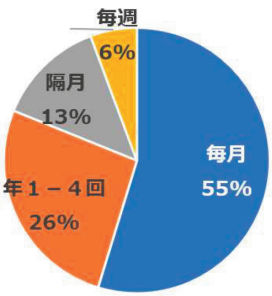
開催頻度	グループ	開催頻度	グループ
2週に1回以上	3	隔月	7
毎月	29	年1～4回	14

2. 年齢層や疾患・病気の限定
あり 8グループ　なし 45グループ

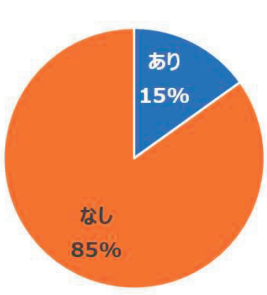
3. 他施設からの参加
可 37グループ　不可 16グループ　記載なし1



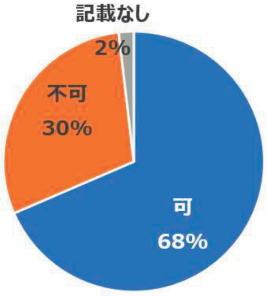
ファシリテーター経験



開催頻度



年齢・疾患・病期の限定



他施設からの参加

図 2. サポートグループの開催状況（2023 年 2 月 11 日）

4. 1施設の開催プログラム数 (n=53)

1グループ　33名　2グループ 7名
3グループ　2名　4グループ 1名

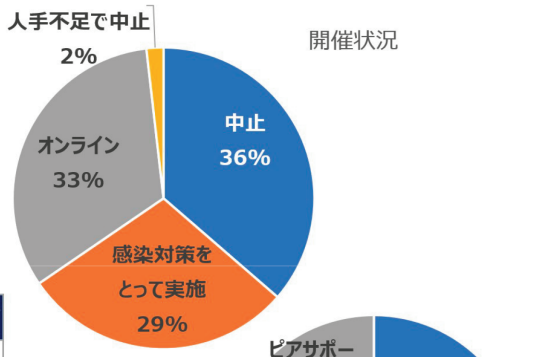
※同施設者からの参加があるため、あくまでも人数でのカウント

5. 平均参加人数　9名

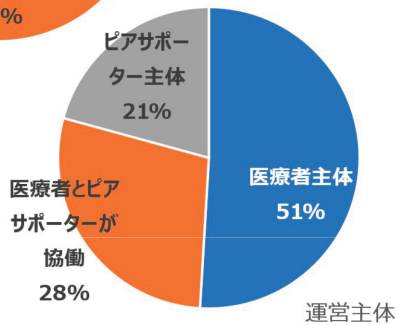
6. コロナ禍での開催状況 (n=53)

開催状況	グループ
感染症予防のため中止した状態である ※うち再開予定・検討中：4グループ	20
オンラインで開催している	18
人数制限・感染対策をとって実施している ※うちオンラインへの移行検討中：2グループ	16
人員不足のため中止（開催予定あり）	1

※現地とオンラインの交互開催 2 施設の重複あり



7. 運営主体 (n=53)



運営主体	グループ
医療従事者が主体で開催(企画・運営)している	27
医療従事者が主体でピアサポーターと協働して開催(企画・運営している)	15
ピアサポーターが主体で開催(企画・運営)している	11

表 2. 自施設の役割に関する記載（抜粋）

自施設の役割に関する記載(抜粋)

1. 自施設に求められている社会的役割、サポートグループに期待されていること

- 治療を安心して受けられるような心理・社会的な支援の提供
- 地域がん診療連携拠点病院として、がん治療やそれに伴うさまざまな相談に応じる役割。サポートグループ活動の推進や、地域で行われているサポートグループ活動の情報発信など。
- 県拠点病院として、県内のがん診療体制の整備に関する中心的役割を担っている
- 九州におけるがん医療の基幹施設として、診断、治療の向上と高度先駆的がん医療の提供
- 地域から信頼される、安全で質の高い医療の提供。様々な併存症のあるがん患者さんにも対応できること。
- がん患者さんに相談できる窓口や緩和ケアについて対応できるなど地域内で質の高いがん医療が提供できるようになる
- 地域の医療機関と連携しながら高度ながん医療を提供している。地域のがん診療のレベルを向上させるために、がん医療に従事する医師等に対する研修、がんの患者さんやそのご家族に対する相談支援、がんに関する各種の情報の収集・提供等の事業を実施することにより、地域におけるがん診療連携の円滑な実施を図るとともに、地域での質の高いがん医療の提供が求められている。
- がん患者・家族同士で悩みや不安などを話し合い、心の重荷を少しでも軽くして自分らしく生活していけるよう支援するために、患者・家族それぞれが求める交流の場の提供、かつ参加者個々のサポートをしていくこと。
- 小児がん拠点病院として、小児がん患者、家族が集まり話ができる場所の提供
- 専門職としてのアドバイス

（その他、空白や「地域がん診療連携拠点病院」「急性期病院」の単語のみの記載も散見された）

4

表 3. 自施設のがん診療の特徴の記載（抜粋）

自施設のがん診療の特徴の記載(抜粋)

- ロボット手術の実績など
- 医療圏内では集学的がん治療ができる唯一の病院。高齢者が多く、小児がんや肺がんは治療していない。AYA世代がんもごく少数。罹患者は、大腸がん、胃がん、前立腺がん、乳がんが多い。放射線機器トモセラピーを導入しており、放射線治療にも力を入れている。
- 高度型がん診療連携拠点病院に指定。令和2年1月1日～12月31日　年間入院がん患者延べ数:4628人　年間外来がん患者延べ数：84559人
- 都道府県がん診療連携拠点病院として、最先端のがん治療（抗がん剤治療、放射線治療、外科手術）を行うのみならず、先進的ながん治療開発（臨床研究や基礎研究）を実践すると共に、患者さんの身体的・精神的苦痛の緩和に努めている。診療科を横断とした医療の提供ができる。
- 乳がんの手術件数は県内でも多い。それに伴い、手術前後の化学療法、放射線治療も実施されており、乳がんの集学的な治療を行っている。なお他のがん腫においても（消化器がん、肺がん、前立腺がん）ダヴィンチによるロボット支援手術を導入しており、低侵襲手術により患者が早期に社会復帰できるよう取り組んでいる。
- がん登録統計の部位別で、男性では前立腺がん、肺がん、胃がんの順となっている。2013年5月よりダヴィンチSiを導入し主に泌尿器疾患の手術を実施している。女性では乳がん、肺がん、結腸がんの順となっている。

（上記のように、所属施設のデータから特徴を分析した記載もあれば、「地域がん診療連携拠点病院」「急性期医療を中心としている」など病院の機能を特徴として記載したものまで様々）

表 4. 自施設からサポートグループに期待されている役割の記載（抜粋）

自施設からサポートグループに期待されている役割の記載（抜粋)

- がん患者さんが治療を続ける中で一息つける居場所を用意すること
- 医療者とだけでは、話せないことや感情の表出などができエンパワーメントできる場となる。
- ピアサポート、少し先の未来をイメージさせること
- 地域がん診療病院要件としての機能
- がん患者さんとご家族にとってより活用しやすい相談支援体制の実現、小・中・高等学校でのがん教育講演、近隣の医療関係者の皆様と地域医療連携交流会、研究会・合同カンファレンスなどを通して積極的に情報交換をおこない、これからも医療圏のがん診療に貢献していく。
- 患者、家族が少しでも安心して治療に専念できる様に情報収集出来る場所、話が出来る場所の提供
- 地域のがん患者さんやご家族が交流できる場を提供し悩みや不安を語り合ったりすることにより、当院のがん診療の質を高めることを目的としている。
- 普段の診療ではカバーしきれない悩み事の抽出と対応、患者の「同じ病気の人と語り合いたい」というニーズの充足
- 乳がん患者が多く、若年の患者さまも多いため治療に対する不安や悩みだけでなく妊孕性や仕事との両立、こどもへの病の伝え方や役割喪失への不安、ボディイメージの変化など不安は多岐にわたります。また患者さま自身から同じように病を体験した方と交流する機会がほしいという要望を聞くことも多いです。そういった患者さまに対する支援が期待されていると思います。

（その他、空白や「集いの場」「がん患者さんのサポート」「がん診療拠点病院要件の機能」、というような一文だけの記載も目立つ）

表 5. 事前評価をしてみての感想①（抜粋）

事前評価をしてみての感想①（抜粋）

- コロナ禍で積極的に参加を促すこともできないため集合でのがんサロン自体が必要なのか疑問を感じる。一方、医療者側としてがんサロンは情報交換の場や仲間づくりの場として大切な役割があることを認知しているが、若い方はWEBで情報収集を行う傾向にあり対面でのサロン参加を必要としていないし、高齢者はWEB操作ができないなどサロンのWEB開催には課題が多い。
- 自施設の評価は実際に参加していないので正確ではない。がんへ罹患する人が増加し医療が高度化していくなかで、医療者のみの支援には限界があるのではないか。また、患者だからこそ気持ちがわかり合えることもあるのではないか。地域の特性をも踏まえた上で意義ある会に作っていきたいと考える。今回学ぶことで、自施設からの発信が院内だけでなく地域連携につながればよいと考える。
- コロナによるサロン休止が続く中で、新たな参加が増えず、運営に協力してくれる患者さんが確保できなくなってきている。こうした現状は県内全体でも同様と考えられ、自施設だけでなく、県内全体でもサポートグループの運営について検討が必要になってきている。
- がん罹患者が安心してがんと共生できるようにするためには、医療者だけではなくもっと身近な方々の支えが必要であると考えるが、そういった関係づくりをどうすすめたらよいか苦悩している。
- 多職種との連携を増やす事、院内への周知が必要と感じた。また、オンライン開催となり参加者が減少している。参加者の確保の方法を検討していく必要がある。
- がんサロン再開を検討している段階だが、実施する際はファシリテーターとしてどのような役割を意識すべきかや、ピアサポーターの存在の重要性に気づくことができた。マンパワーの問題もあり、自施設ですぐにがんサポートの運営に踏み切ることはできないが、他施設がどのような取り組みをしているのか興味を持った。

表 6. 事前評価をしてみての感想②（抜粋）

事前評価をしてみての感想②（抜粋）

- オンラインがんサロンを始めたが、以前のサロン参加者は高齢でオンラインでの参加は難しく、なおかつ対面でこそ意義があるという意見で参加していない。オンラインサロンの参加者は2～3名だが、体験を共有したり励ましあう場にはなっていると感じている。ピアサポートの育成や、オンラインがんサロンのあり方や周知、オンラインで参加できない方への支援が課題。
- 院内の多くの部門が協力体制はできているが、リモートで行う患者会は、患者が高齢化していること、患者相互の話ができないことなどから、参加者が減っている現状にある。定期的に病院側が企画しているだけで、テーマがあることから、毎回参加する患者も少なく、患者自身が自発的グループを作るほどにはなっていない。
- がん患者会やピアサポートをしていても、患者への宣伝が不足していたり、患者が知りたいことのニーズが把握できていないので、自分たちが開催しているテーマが適しているのか疑問である。
- コロナ禍のため、開催準備後に、感染拡大により中止になる状況が繰り返されている。広報としては、開催場所であるショッピングモールと自施設でのホームページ掲載、チラシの掲示、職員に向けた開催のお知らせ等を行っているが新しく参加される方は少ない。長年関わっていただいている数名の参加者が定期的に参加されている現状である。院内の職員との協働、院外のサポートグループとの関り等について学びたい。
- 現在、患者家族主体の定例会が月に１回開催されていますが、SWは参加できていません。患者自身が集まれる場がないため、ピアサポートの場にいずれは発展させたいと考えておりますが、対象が子ども自身であり、どのように進めたらよいのか、迷っているところです。ぜひ、今回のセミナーで患者サロンの運営や、病院職員としてどのような立場をとればよいのかご教示いただきたいです。
- 患者会主体のサポートグループは、患者会が自立しており企画・運営について医療者の介入はほとんどなかった（同席することを望まれていなかった）ため、ピアサポーターと患者さんとの対応の評価ができなかった。ピアサポーターの対応の振り返り時に困った時の相談対応や場所の提供・広報活動への協力は必要時院内の関連部署で対応できてきていると思うが、コロナ禍で休会が続いているサロンの運営のサポート方法やピアサポーターの活動支援についての知識や企画力をこの研修で学びたいと思った。

表 7. 事前評価をしてみての感想③（抜粋）

事前評価をしてみての感想③（抜粋）

- 長年勤めていたピアサポーターの方の退職により、現在がんサロンの開催ができていない。がんサポートグループのあり方等を学びたいと思った。
- これから、ファシリテータとしてがんサロンに参加することになるため、評価できない項目があるが、事前に評価項目を確認することで、今後、学ぶところ、体制を整えるところの整理ができた。
- コロナ禍で入職したため、患者サロンへの参加は一度もありません。本アンケートに関しては、患者サロンが開催されていた頃の記録等を参考にして入力致しました。
- コロナ前のおしゃべりサロンは関わりが全くなかったので評価のあたりが実際のサポートグループの現状とは異なる評価（全て少しできているにチェックしています）に反映できていません。この度おしゃべりサロンが再開されますので今回の研修で学びを深めて運営に活かしていきたいと考えています。他施設での運営や工夫など聞けることを楽しみにしています。
- がん拠点病院を取得して1年たっておらず、また新型コロナウィルスの影響により、サポートグループについて全く機能していないことがわかった。研修を通して、どのように運営し、機能させていけばいいか学んでいけたらと思います。
- 9月より現職場で勤務を開始しています。自施設のがんサポートグループが複数存在している事を知りましたが、自身がどう企画・運営に関わって行けば良いのかを基礎から学習する必要性を再度認識しました。今回の研修会へ参加する事で他施設の方とディスカッションを深める事で目標や課題が明確となり、効果ながんサポートグループの企画・運営が行っていけるように学んで行きたいと思います。
- 再開にむけて検討しているが、関わるスタッフが新型コロナ流行後に入職しているため、今までの状況について知っているスタッフが少なく、サロンの企画、運営について不安がある。（事前評価アンケートは今までの状況を知っているスタッフや資料を考慮して回答させていただきました）
- 2年前に患者会に関わっていたスタッフが現在院内にいないため、今後どのように開催をするべきか大変悩んでおります。1からのスタートになるため、右も左もわからない状態です。このような状態で研修に参加させて頂くのが申し訳ないと感じておりますが、ぜひこの研修でどのように運営をすべきかを学びたい。

9

表 8. サポートグループ運営に関する目標レベル設定とクラスター分析結果

自施設のサポートグループの目標レベル設定

- 応募者65人、受講確定61人
- 事前課題アンケート未提出者は5名
- 以下、事前課題アンケートの結果から43名をクラスター分析で5つに分類（13名の欠損除く）

2023年1月30日
43/62名提出　69%回収

目標レベル	Cluster	人数	特徴
Ⅰ：21名	CLU1	6	全体のスコアが低い
	CLU2	15	ファシリテーション以外が低い
Ⅱ：19名	CLU3	11	全体の平均と同等だがピアが高い
	CLU4	8	ファシリテーションは高いがピアが課題
Ⅲ：3名	CLU5	3	ファシリテーションは高いがピアがやや課題

アンケート未提出5名、欠測がある者13名は、似た特徴のあるクラスターに振り分け、
各目標レベルに設定した
※未提出者にはリマインドメール送信、締め切り後の回答は分析対象に含まず

レベル1	28名
レベル2	24名
レベル3	4名

辞退1名、未提出6名除く56名を分類

短期サポートグループワーキンググループ　活動記録

第1回 WG会議
日時：令和4年6月8日
議事：
(1) 事業内容の確認
(2) ワーキングの方向性の検討
(3) 今後の予定の確認

第2回 WG会議
日時：令和4年6月26日
議事：研修会概要決定(研修会日時、それに向けたスケジュール)、役割分担の確認

第3回 WG会議
日時：令和4年9月20日
議事： 11月3日実施の研修会に向けた役割分担、講義スライドの最終確認、事務連絡

第4回 WG会議
日時：令和4年11月21日
議事：11月23日実施の研修会に向けた役割分担、講義スライドの最終確認、事務連絡

第5回 WG会議
日時：令和5年1月31日
議事：2月11日実施の研修会に向けた役割分担、講義スライドの最終確認、事務連絡

がんサポートグループ企画・運営者のための研修会(令和4年度第1回)
会場(配信拠点)：秋葉原UDX　(東京都千代田区外神田4-14-1)
令和4年11月2日(水)　18：00～19：00（前日打合せ）
令和4年11月3日(木・祝)　8：30～9：00（直前打合せ）
〃　10：00～17：00（研修）
〃　17：00～18：00（関係者反省会）

がんサポートグループ企画・運営者のためのフォローアップ研修会
配信拠点：グランフロント大阪　(大阪府大阪市北区大深町3-1)
令和4年11月23日(水・祝)　11：00～11：30（直前打合せ）
〃　13：00～17：00（研修）
〃　17：00～18：00（関係者反省会）

がんサポートグループ企画・運営者のための研修会(令和4年度第2回)
会場(配信拠点)：AP大阪淀屋橋　(大阪府大阪市中央区北浜3-2-25)
令和5年2月10日(金)　18：00～19：00（前日打合せ）
令和5年2月11日(土・祝)　8：30～9：00（直前打合せ）
〃　10：00～17：00（研修）
〃　17：00～18：00（関係者反省会）

Ⅴ.都道府県への支援

1. ピア・サポーター向け研修会の実施

(1)香川県 ピア・サポーター養成研修会

実施日：令和 4 年 10 月 8 日(土)　　会場：香川県庁 12 階会議室
開催形式：対面
参加者：香川県内のピア・サポーター18 名、香川県がん診療連携拠点病院医療従事者 1 名

開始	終了	所要時間(分)	ピア・サポーター(第 1 会議室)	ピア・サポーター(第 2 会議室)
10:00	10:10	10	開会のあいさつ、オリエンテーション	
10:10	10:40	30	事前講義の振り返り、アイスブレイク	
10:40	10:50	65	「自分の体験を語る」全体オリエンテーション	
10:50	11:10		自分の体験を語る　A 班：前半	自分の体験を語る　B 班：前半
11:10	11:20		〔休　憩〕	
11:20	11:40		自分の体験を語る　A 班：後半	自分の体験を語る　B 班：後半
11:40	11:45		グループごとにまとめ	グループごとにまとめ
11:45	12:25	40	〔昼休憩〕	
12:25	12:40	130	ロールプレイ　オリエンテーション	
12:40	12:45		グループに分かれる	
12:45	13:05		ロールプレイ　(セッション 1)	
13:05	13:25		ロールプレイ　(セッション 2)	
13:25	13:35		〔休　憩〕	
13:35	13:55		ロールプレイ　(セッション 3)	
13:55	14:15		ロールプレイ　(セッション 4)	
14:15	14:35		ロールプレイのまとめ（全体）	
14:35	14:45	10	〔休　憩〕	
14:45	15:25	40	事例検討（バウンダリーの視点から）	
15:25	15:40	15	まとめ/質疑応答	
15:40	15:50	10	閉会挨拶、事務連絡、アンケートの記入	
16:00			反省会（関係者）	

(2)茨城県　ピア・サポーター養成研修会

実施日：2022 年 12 月 26 日(月)　　会場：茨城県庁会議室
開催形式：対面
参加者：ピア・サポーター12 名、講師 4 名、協力者 4 名(ピア・サポーター)、行政 3 名

開始	終了	所要時間(分)	研修科目
9:15	9:20	5	開会・オリエンテーション
9:20	9:30	10	・自己紹介（一言づつ）
9:30	10:15	45	・事前講義の振り返り（事前動画視聴の復習+質疑応答等）
10:20	11:20	60	ワークショップ（自己の体験を語る）：前半
11:25	12:25	60	ワークショップ（自己の体験を語る）：後半

13:10	13:25	15	・がん相談支援センターとピア・サポート相談窓口について
13:25	15:05	100	① 茨城のピア・サポートについて ② ワークショップ （ピア・サポーター達からの相談窓口の状況、体験談、劇団ピア・サポートによる模擬サポート、実演、振り返り）
15:10	16:40	90	・ワークショップ（ロールプレイ）
16:40	16:45	5	・今後の対応についての説明、閉会

(3)長崎県　フォローアップ研修会＆ピア・サポーター養成研修会

実施日：2023 年 1 月 7 日(土)　　会場：長崎県庁会議室

開催形式：対面

参加者：ピア・サポーター8 名、医療従事者 13 名

開始	終了	所要時間(分)	ピア・サポーター	医療者・行政
10:30	10:50	20	交流会受付	
10:50	11:30	40	ピア・サポーター交流会(希望者のみ)　(進行：長崎県)	
11:30	12:30	60	昼食	
12:30	13:00	30	研修会受付	
13:00	13:15	15	開会のあいさつ、オリエンテーション	
13:15	13:25	190	ロールプレイ・グループワーク　オリエンテーション	
13:25	13:40		グループに分かれる	グループに分かれる
13:40	14:05		ロールプレイ（セッション 1）	行政・医療者向けグループワーク
14:05	14:30		ロールプレイ（セッション 2）	
14:30	14:40		〔休　憩〕	
14:40	15:05		ロールプレイ(セッション 3)	行政・医療者向けグループワーク
15:05	15:30		ロールプレイ(セッション 4)	
15:30	15:35		〔休憩＆移動〕	
15:35	16:15		ロールプレイ・医療者向け GW　全体まとめ	
15:55	16:05		〔休　憩〕	
16:05	16:20	15	ピア・サポーターのストレスマネジメント	
16:20	16:55	15	質疑応答	
16:55	17:00	5	閉会あいさつ、事務連絡など	
17:00	18:00	60	反省会（関係者）	

(4)栃木県　ピア・サポーター養成研修会

実施日：2023 年 2 月 23 日(木・祝)　　会場(配信拠点)：栃木県庁会議室
開催形式：オンライン
参加者：ピア・サポーター14 名、医療従事者 8 名

開始	終了	所要時間(分)	ピア・サポーター		行政・医療者
12:30	13:00	30	受付		
13:00	13:20	40	開会のあいさつ、オリエンテーション		
13:20	13:40		事前講義の振り返り		
13:40	13:50	70	自分の体験を語る　オリエンテーション		
13:50	14:00		ブレークアウト開始	ブレークアウト開始	ブレークアウト開始
14:00	14:40		A グループ 自分の体験を語る	B グループ 自分の体験を語る	ピア・サポートを実装するために(医療行政向けグループワーク)
14:40	14:55		〔休　憩〕		
14:55	15:10	140	ロールプレイ (オリエンテーション)		※ロールプレイの見学
15:10	15:25		グループに分かれる		〃
15:25	15:45		ロールプレイ　(セッション 1)		〃
15:45	16:05		ロールプレイ　(セッション２)		〃
16:05	16:15		〔休　憩〕		
16:15	16:35		ロールプレイ　(セッション 3)		〃
16:35	16:55		ロールプレイ　(セッション 4)		〃
16:55	17:15		ロールプレイのまとめ（全体）		〃
17:15	17:25		〔休　憩〕		
17:25	17:45	20	栃木県でピア・サポートを行うために、質疑応答		
17:45	17:55		閉会挨拶、事務連絡など		
18:00	18:40		反省会（関係者）		

2. 都道府県との意見交換会、打合せ

(1)宮崎県 意見交換会

実施日：令和 4 年 8 月 29 日（火）15:00～16:00　開催形式：オンライン
参加者：宮崎県福祉保健部健康増進課がん・疾病対策担当 2 名、委託事業 4 名
主な議題：
(1) 宮崎県から現在の取組について説明
(2) ピア・サポーター養成に向けた今後の取組方針等の意見交換

(2)高知県 意見交換会

実施日：令和 5 年 2 月 7 日（火）13:30～14:15　開催形式：オンライン
参加者：高知県健康政策部健康対策課 2 名、委託事業 2 名
主な議題：
(1) 高知県から現在の取組について説明
(2) ピア・サポーター養成に向けた今後の取組方針等の意見交換

3. ピア・サポーター養成研修のための資材提供、情報提供

委託事業事務局に問い合わせのあった都道府県や都道府県が委託するピア・サポーター養成等を行う団体、また資材に興味を持っていただいた団体や個人へ資材の送付・提供を行った。また、都道府県行政とピア・サポート事業に係る各種相談対応、情報交換を行った。

(1)テキスト、資材提供の内容

・ピア・サポーター養成テキスト 2020 年度版
・がんサポートプログラム企画の手引き　2020 年度版
・自治体/がん診療連携拠点病院向け　ピア・サポートを推進するための手引き
・ピア・サポーター養成研修　講義動画(DVD)

(2)各種相談対応、情報交換

・医療者との連携について協議の場の設置の助言、提案
・養成研修会・フォローアップ研修実施、講師派遣の相談
・養成研修プログラムの相談
・フォローアップ研修の取り組みについての情報交換
・フォローアップ研修の他都道府県の取り組みの紹介

4. 令和 4 年度に行った支援内容・支援先の一覧

支援内容	都道府県
ピア・サポート基礎研修の実施	栃木、茨城、香川、長崎
ピア・サポーターフォローアップ研修会の実施	長崎
行政・医療従事者向け研修会の実施	
意見交換会の実施	宮崎、高知
テキスト、講義動画等の資材提供、各種相談対応、情報交換	都道府県 宮城、秋田、茨城、栃木、富山、三重、兵庫、福岡、長崎 鹿児島、香川、岡山、長野、大分、滋賀、熊本 地域統括相談支援センター 山形、佐賀、沖縄
がん診療連携拠点病院、患者会・個人からの問い合わせ対応、情報交換、資材提供	がん診療連携拠点病院等の医療機関　125 件 患者会、個人　5 件

5. 委託事業の 4 か年の支援(令和元年度～令和 4 年度)

ピア・サポーター養成研修、フォローアップ研修開催の支援		
養成研修未実施だったが研修会実施に至った。または研修前段階の講演を開いた。	2	(R1) (R2)長崎 (R3)栃木 (R4)栃木、香川

研修が中断していたところ養成の再開、標準プログラムでの研修実施に至った	3	(R1)三重、奈良 (R2) (R3) (R4)
フォローアップ研修会未実施だったところ研修会実施に至った	1	(R1) (R2) (R3)長崎 (R4)長崎
運営協力を行った(研修プログラムの相談、フォローアップ研修会への講師参加)	3	(R1)奈良、宮城、熊本、群馬 (R2) (R3)兵庫、山形、石川 (R4)茨城
標準プログラムの送付を行い、養成研修やフォローアップ研修会実施を支援 (テキストの送付、動画提供)		(R1) (R2) 秋田、山形、群馬、富山、愛媛、広島、佐賀、長崎、熊本、鹿児島、沖縄、 (R3) 千葉、兵庫、佐賀、熊本、沖縄 (R4) 茨城、福岡、熊本、沖縄、兵庫、群馬
医療者との連携・構築支援 県に対して医療者との連携の必要性、研修会を設けることを助言。拠点病院内の相談員、サロン関係者を招集し、講義のみではなく、病院間の情報交換の時間も併せて設けるよう助言した。		
医療者向けの研修、行政・医療者を含めた意見交換会を実施した		(R1) 岩手、山口、沖縄、長崎、群馬、熊本 (R2) 宮城 (R3) 福岡、香川、栃木、長崎、沖縄 (R4)
行政への施策の助言 各自治体の個別の問題に対しての助言。(ピア・サポート事業がほとんど進んでいない県に対しては何から取り組み始めるべきかを提案した。すでにピア・サポート事業が行われている県に対しては、医療者との関わりがない県も多く運営体制の見直しなどを助言した)		
行政との意見交換会を実施した		(R1) 福岡、山梨、埼玉、高知、香川、島根、鹿児島 (R2) (R3) 高知、栃木 (R4) 宮崎、高知
各種相談対応(委託先、患者団体との対応を含む。4年間の集計)		
・意見交換会等の開催提案、助言 ・他都道府県での取り組みの紹介 ・テキスト等資材の送付 ・情報交換		都道府県庁・地域統括相談支援センター・委託先団体 青森、岩手、宮城、秋田、茨城、栃木、群馬、埼玉、新潟、富山、山梨、長野、滋賀、三重、兵庫、広島、山口、岡山、愛媛、香川、福岡、大分、長崎、熊本 鹿児島 がん診療連携拠点病院等の医療機関 患者会、個人

Ⅵ.がん患者に対するピア・サポート体制に関する都道府県調査

改訂委員会委員長　小川　朝生
国立がん研究センター　先端医療開発センター　精神腫瘍学開発分野

A. 目的

ピア・サポートは、がんを含めた慢性疾患に対する基礎的な心理社会的な支援の一形式である。

がん対策推進基本計画（第 3 期）において、ピア・サポートについて、国が作成した研修プログラムの活用状況に係る実態調査を行い、ピア・サポートが普及しない原因を分析し、研修内容の見直しやピア・サポートの普及を図ることが個別目標に掲げられている。

本事業では、上記の課題に対応するために、研修プログラムの改訂をおこない、各都道府県への情報提供等を進めてきた。

各都道府県におけるピア・サポート研修の実施状況や行政と医療機関との協力体制に関する現状を把握することを目的に、厚生労働省健康局がん・疾病対策課の協力を得て、各都道府県に対してアンケート調査を実施した。

B. 経過

全都道府県のがん対策の担当部署を対象に、ピア・サポートに関する取組み状況についての自記式アンケート調査を実施した。

実施時期は 2022 年 5 月 27 日(火)～6 月 30 日(木)でおこない、44 の都道府県担当部署より回答を得た。

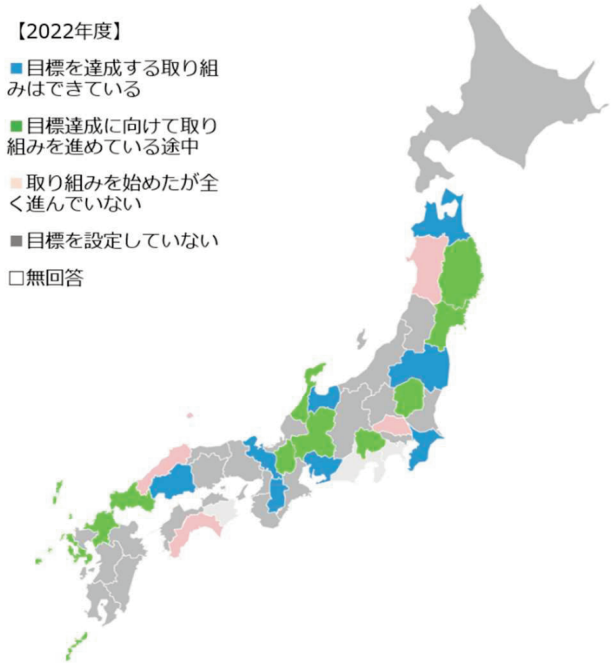
回答結果

アンケートの各項目の結果は以下の通りであった。

(1) 都道府県がん対策推進基本計画におけるピア・サポートに関する項目の目標の達成状況

目標を達成する取り組みができている 8 県であった。一方、目標達成に向けて取り組みを進めている途中の県が 11 県、取り組みを始めたが全く進んでいない・目標を設定していない県は 25 県であった。

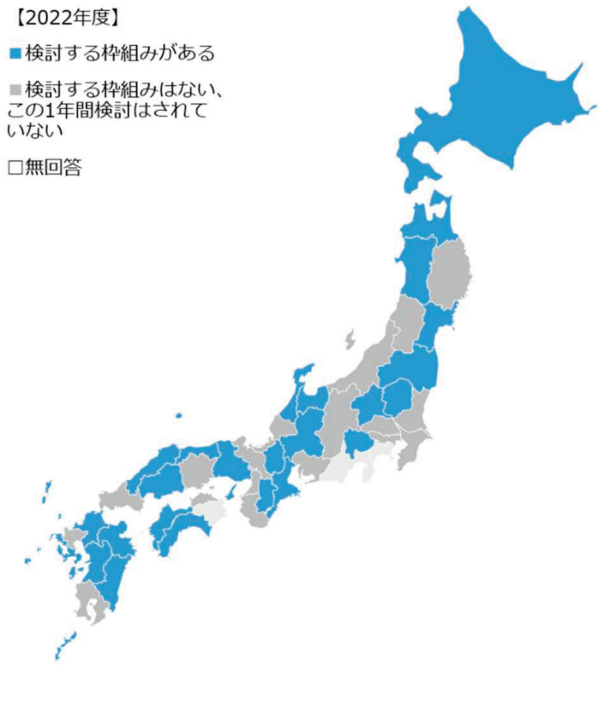
都道府県がん対策推進基本計画におけるピア・サポートに関する項目について、目標(数値目標)達成に向けた取り組みはどこまで進んでいますか。	数	割合
目標を達成する取り組みはできている	8	17.0%
目標達成に向けて取り組みを進めている途中	11	23.4%
取り組みを始めたが全く進んでいない	4	8.5%
目標を設定していない	21	44.7%
無回答	3	6.4%
総計	47	100.0%



(2) 都道府県がん診療連携協議会、部会等でのピア・サポートについての検討状況

都道府県のがん診療連携協議会等の場で、ピア・サポートについてなんらかの検討を実施している県は 26 県であった。検討する枠組みはない・この 1 年間検討のない県が 18 県あった。

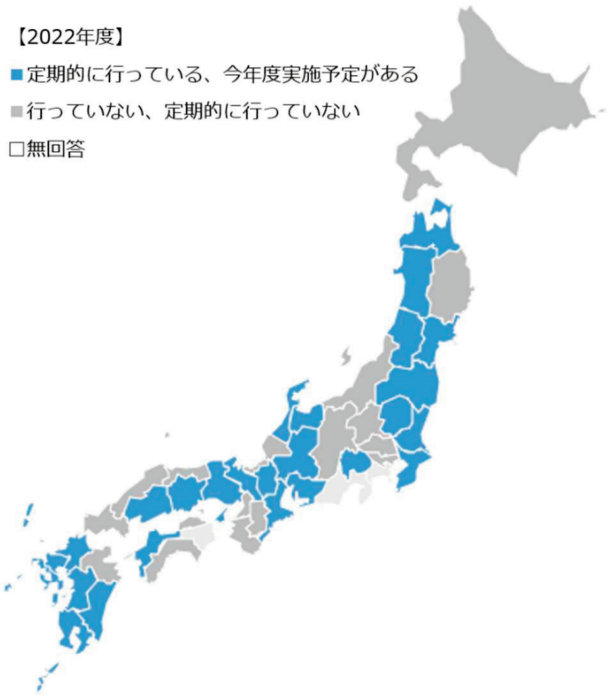
(2)都道府県がん診療連携協議会、部会等で都道府県内のピア・サポートについて検討する枠組みはお持ちですか。この1年での取り組みについて教えてください。	数	割合
検討する枠組みがある	26	55.3%
検討する枠組みはない、この1年間検討はされていない	18	38.3%
無回答	3	6.4%
総計	47	100.0%



(3) ピア・サポーター養成研修会の定期的な開催状況

都道府県がピア・サポーターの養成を目的とした研修会を定期的に行っている、もしくは今年度(令和 4 年度)中の実施予定ある県は 27 県あった一方、行っていない県が 17 県あった。

(3)*ピア・サポーター養成研修会は定期的に行っていますか。この1年での取り組みについて教えてください。	数	割合
定期的に行っている、今年度実施予定がある	27	57.4%
行っていない、定期的に行っていない	17	36.2%
無回答	3	6.4%
総計	47	100.0%



(4) がんサロン同士の連携や情報共有

がんサロン同士の連携の場や情報共有を行っている県は22県ある一方、定期的な取り組みはしていない県が22県あった。

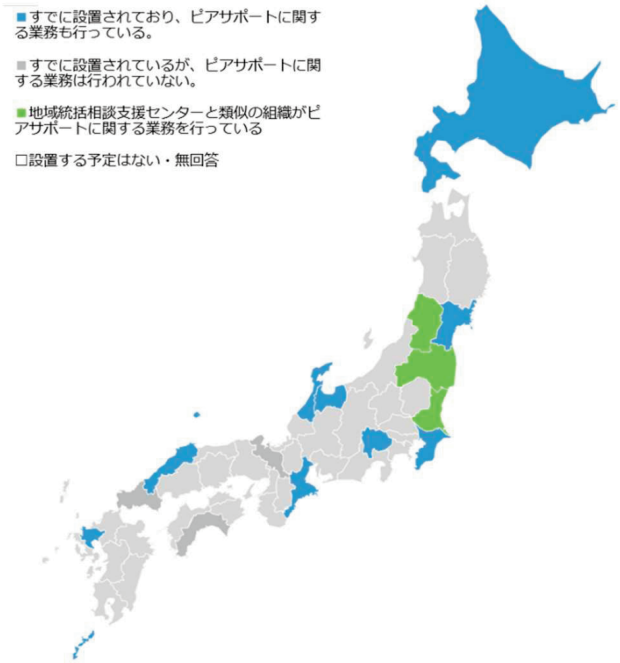
(4)*がんサロン同士の連携や情報共有は行っていますか。この１年での取り組みについて教えてください。	数	割合
行っている	22	46.8%
もともと行っていない、以前行っていたがこの１年(令和３年度中)は取り組みがない	22	46.8%
無回答	3	6.4%
総計	47	100.0%



(5) 地域統括相談支援センターを設置する予定

ピア・サポーターの養成等マネジメントを担ううえで活用の望まれる地域統括相談支援センター（ないしは、類似する機能を持つ組織）について、設置している県は13県あり、そのうちの10県はピア・サポートに関する業務も行っていた。

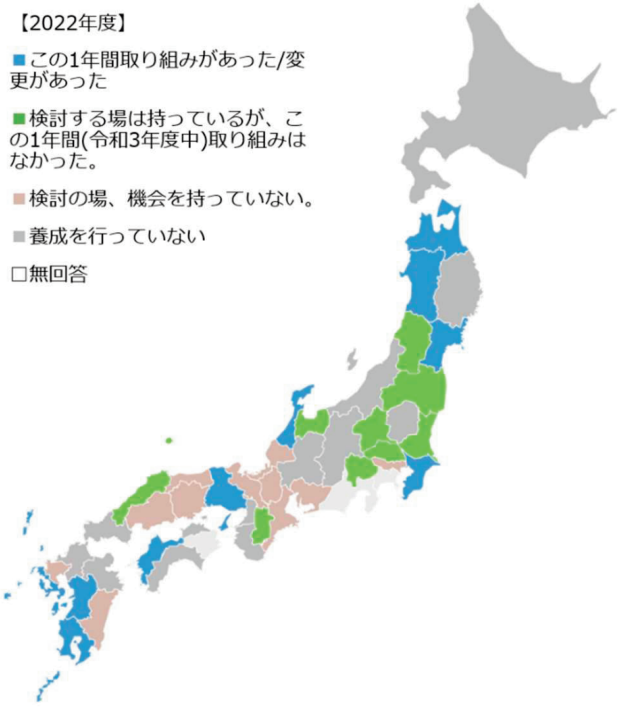
(5)*地域統括相談支援センターを設置する予定はありますか。	数	割合
設置する予定はない・無回答	31	66.0%
すでに設置されており、ピア・サポートに関する業務も行っている。	10	21.3%
すでに設置されているが、ピア・サポートに関する業務は行われていない。	3	6.4%
地域統括相談支援センターと類似の組織がピア・サポートに関する業務を行っている	3	6.4%
総計	47	100.0%



(6) ピア・サポーター養成研修会の内容について、がん診療連携拠点病院と検討する機会

ピア・サポーターの養成研修会のプログラム等に関し、がん診療連携拠点病院の医療従事者との検討について、この 1 年間で検討があった県は 11 県あった一方、この 1 年間で取組みがあった県は 9 県であった。養成をしていない、あるいは検討の場や機会のない県は 24 県であった。

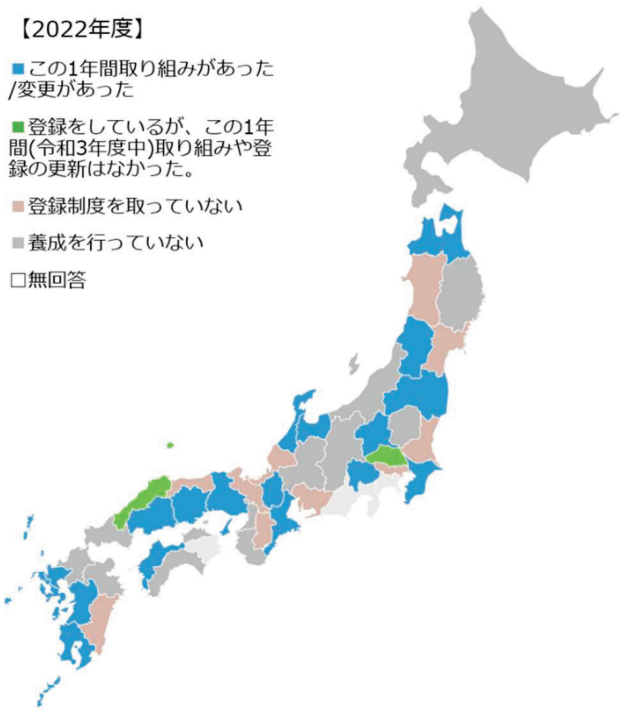
(6) ピア・サポーター養成研修会の内容について、がん診療連携拠点病院等と検討する機会をお持ちですか。	数	割合
この 1 年間取り組みがあった/変更があった	11	23.4%
検討する場は持っているが、この 1 年間(令和 3 年度中)取り組みはなかった。	9	19.1%
検討の場、機会を持っていない。	11	23.4%
養成を行っていない	13	27.7%
無回答	3	6.4%
総計	47	100.0%



(7) 登録されたピア・サポーターの登録体制

ピア・サポーターの養成後のマネジメントの基本となる登録制度について、この 1 年間で取り組みがあった県は 11 県であった。

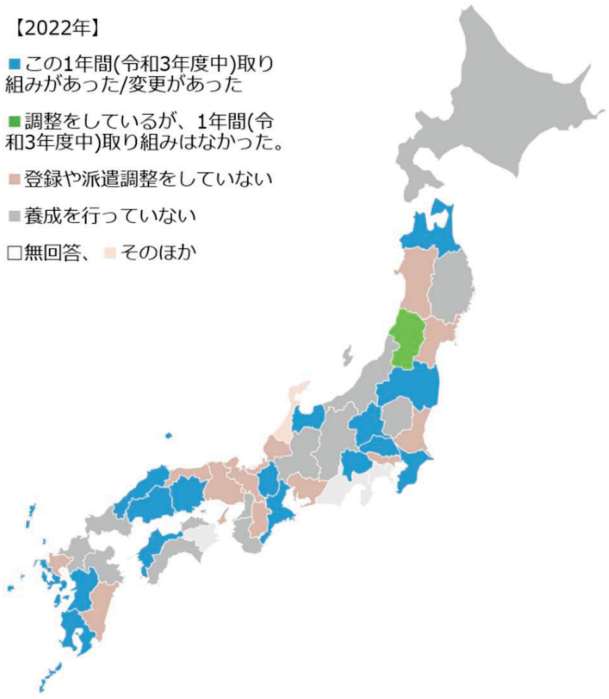
(7) ピア・サポーターの登録制度はありますか。	数	割合
この 1 年間取り組みがあった/変更があった	11	23.4%
登録をしているが、この 1 年間(令和 3 年度中)取り組みや登録の更新はなかった。	10	21.3%
登録制度を取っていない	10	21.3%
養成を行っていない	13	27.7%
無回答	3	6.4%
総計	47	100.0%



(8) 登録されたピア・サポーターに活動の場を提供するための調整（がんサロンへの派遣、紹介など）

この 1 年間(令和 3 年度)で、養成したピア・サポーターをがん診療連携拠点病院等へ派遣する等のマネジメントを行った県は 17 県であった。

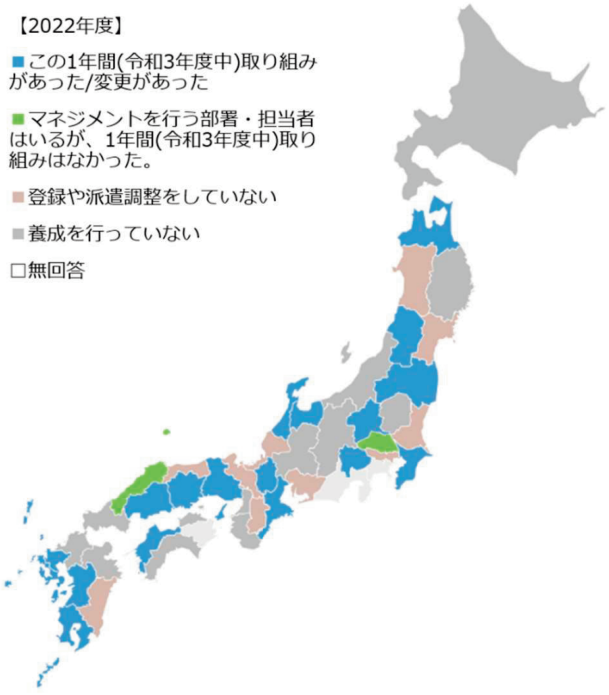
(8) 登録されたピア・サポーターに活動の場を提供するための調整は行っていますか	数	割合
この 1 年間(令和 3 年度中)取り組みがあった/変更があった	17	36.2%
調整をしているが、1 年間(令和 3 年度中)取り組みはなかった。	1	2.1%
登録や派遣調整をしていない	12	25.5%
養成を行っていない	13	27.7%
無回答、そのほか	4	8.5%
総計	47	100.0%



(9) 登録されたピア・サポーターの教育、管理などのマネジメントを全般的に行う部署・担当者（もしくは行政以外の他機関）

ピア・サポーターの養成から活用までを担う部署を定めている県は 19 県であった。

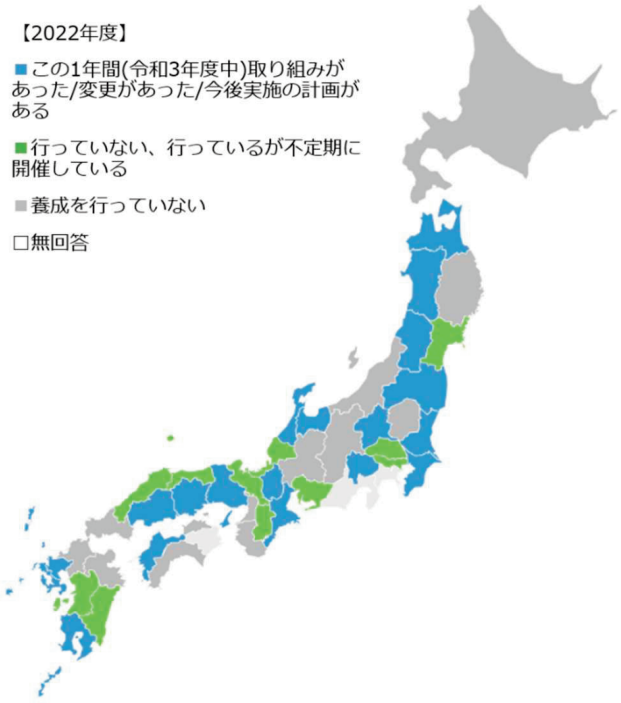
(10) 登録されたピア・サポーターの教育、管理などのマネジメントを全般的に行う部署・担当者(もしくは行政以外の他機関)は定まっていますか。	数	割合
この 1 年間(令和 3 年度中)取り組みがあった/変更があった	19	38.3%
マネジメントを行う部署・担当者はいるが、1 年間(令和 3 年度中)取り組みはなかった。	2	4.3%
登録や派遣調整をしていない	10	21.3%
養成を行っていない	13	27.7%
無回答	3	6.4%
総計	47	100.0%



(10) フォローアップ研修会の定期的な開催

ピア・サポートの質を担保するために重要となるフォローアップ研修に関して、この1年間(令和3年度中)取り組みがあった・今後実施の計画がある県は20県であった。

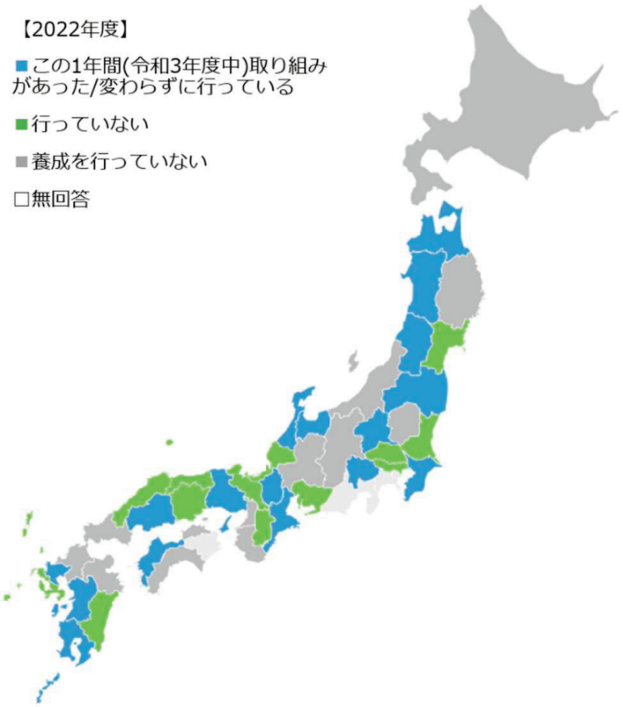
(12) フォローアップ研修会は定期的に行っていますか。	数	割合
この1年間(令和3年度中)取り組みがあった/変更があった/今後実施の計画がある	20	42.6%
行っていない、行っているが不定期に開催している	11	23.4%
養成を行っていない	13	27.7%
無回答	3	6.4%
総計	47	100.0%



(11) ピア・サポーターの質の担保のための振り返りの取り組み

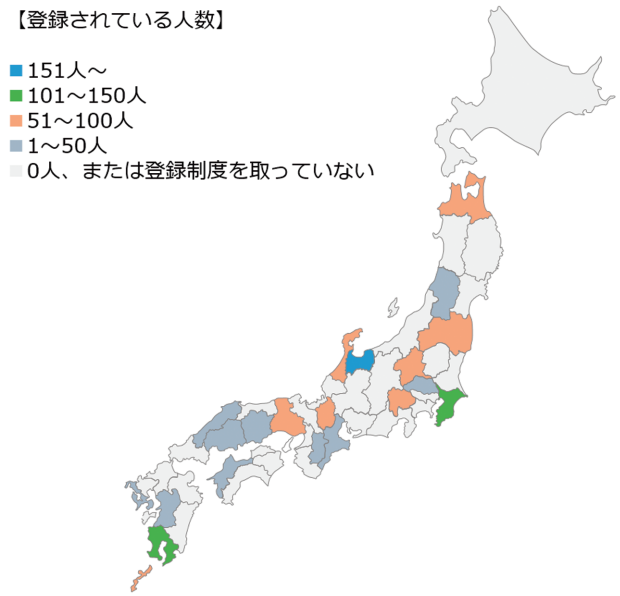
同じく、ピア・サポートの質を維持・向上させる上で、振り返りの機会を作ることは重要である。この1年間(令和3年度中)で何らかの質の担保に取り組んでいる県は18県あった。

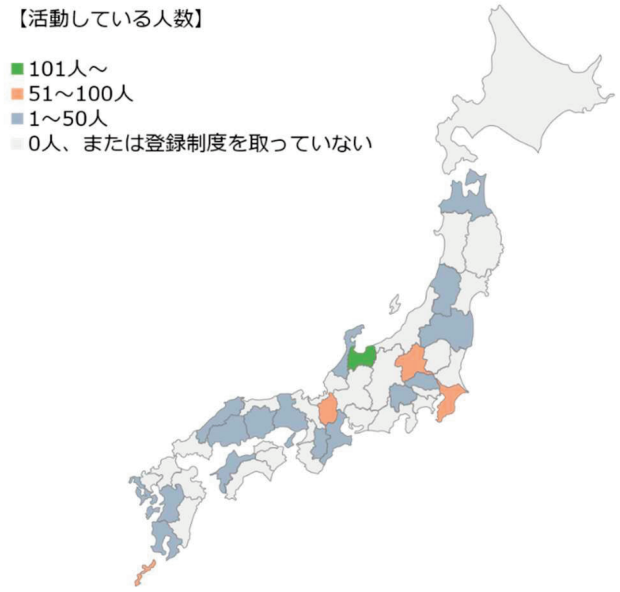
(13) 活動の振り返りなどを行い、ピア・サポーターの質の担保に取り組んでいますか。	数	割合
この1年間(令和3年度中)取り組みがあった/変わらずに行っている	18	38.3%
行っていない	13	27.7%
養成を行っていない	13	27.7%
無回答	3	6.4%
総計	47	100.0%



(12) ピア・サポーターとして登録されている人数、実際に活動している人数

ピア・サポーターの登録制度を持っている県において、登録されている人数、そのうち実際に活動している人数については、県ごとの制度の違いはあるものの、100 名以上の登録の出ている県もあった。

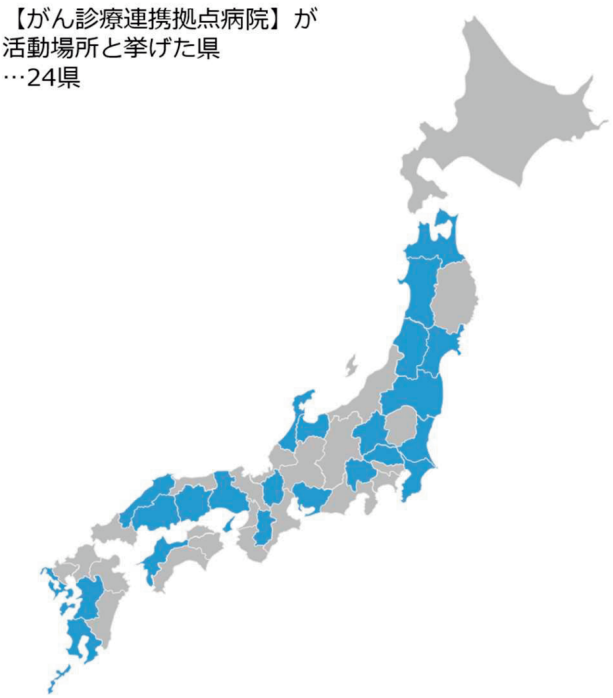




(13) ピア・サポーターの活動場所

ピア・サポーターが活動する場として、がん診療連携拠点病院等を挙げた県は24 県、都道府県庁等公共の機関を挙げた県は 4 県、オンライン上と挙げた県は 17 県だった。

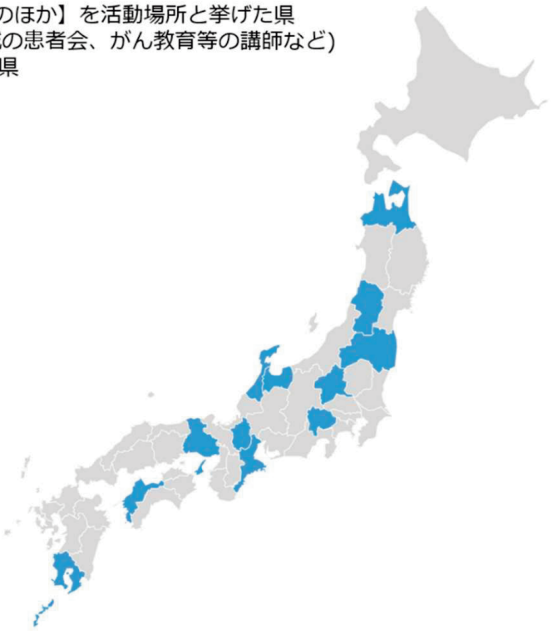
ピア・サポーターの活動場所（複数回答可）	数
がん診療連携拠点病院等	24
都道府県庁等公共の機関	4
オンライン上	17
その他（地域の患者会、がん教育など）	3



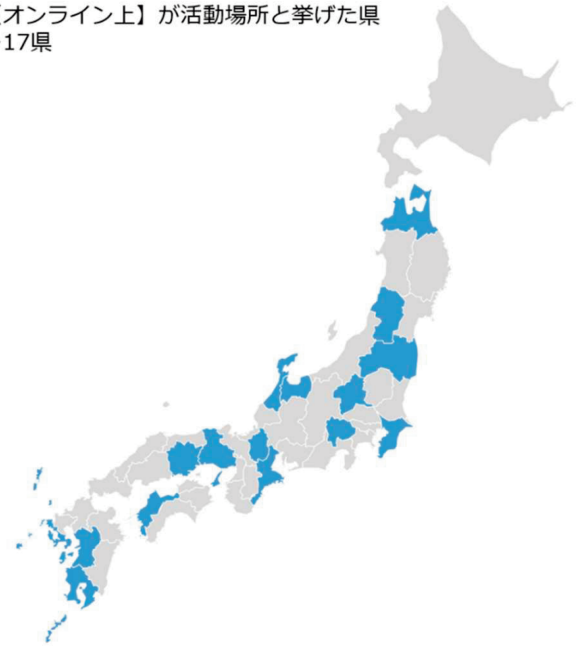
【都道府県庁等の公共機関】が活動場所と挙げた県
…4県



【そのほか】を活動場所と挙げた県
(地域の患者会、がん教育等の講師など)
…18県



【オンライン上】が活動場所と挙げた県
…17県



C. 考察

今回、都道府県のがん対策担当部署を対象に、ピア・サポートに関する各県の取組みの状況をたずね、44 都道府県より回答を得た。

結果の主要なまとめは以下の通りである。

- 都道府県がん対策推進基本計画でピア・サポートに関して目標を設置しているのは 23 都道府県(48.9%)であった。
- 都道府県がん診療連携協議会等で定期的にピア・サポートに関する検討が行われているのは 26 都道府県(55.3%)であった。また、養成研修の内容をがん診療連携拠点病院と定期的に検討する機会を設定しているのは 11 都道府県(23.4%)であった。
- がん診療連携拠点病院内のがんサロン同士の連携や情報共有が定期的に行われているのは 22 都道府県(46.8%)であった。
- ピア・サポーター養成研修会が定期的に開催されているのは 27 都道府県(57.4%)であった。
- 養成した後登録制度を取っているのは 21 都道府県(44.7%)、派遣等のピア・サポーター活動の調整を行っているのは 17 都道府県(36.2%)、登録されたピア・サポーターのマネジメントを行う部署等が決まっているのは 21 都道府県(42.6%)、フォローアップ研修を定期的に開催しているのは 20 都道府県(42.6%)、活動ごとに振り返りを行っているのは 18 都道府県(38.3%)であった。

国のがん対策推進基本計画を受けて、都道府県ごとにがん対策に関する計画を立案する。そのなかで、ピア・サポートに関する目標を設定した県がおよそ半数であり、ピア・サポートに関する取組みやモニタリングの難しさを示している。

特にピア・サポートは、がん患者・家族への心理社会的支援の基盤を成す活動である。そのため、行政と医療機関とが継続して活動を育む必要がある。しかし、行政と拠点病院がピア・サポートについて検討する場を持っている都道府県は 4 分の 1 にとどまっていることが明らかとなった。今後、ピア・サポートの養成・活用を進めるうえで、都道府県ごとに行政担当者と医療従事者の理解を深めると共に、行政と医療機関が県内でどのように育成するかを一緒に検討する場を設けるよう進めていくことがまず求められる。

また、県内のがん診療連携拠点病院等のがんサロンやピア・サポートに関する情報共有が行われている県は22県であった。これは、ピア・サポートの養成に行政のみで関わっている形式や、医療機関内で閉じていることが多いことを示している。実際には、ピア・サポートのような基本的な心理社会的支援は、患者・家族のニーズに応じて使い分けていくことが大事である。その点で、がん患者・家族が、アクセス可能なピア・サポートに関する情報に接することができるよう促す仕組み作りも重要である。

今回明らかとなった各種の取組みの実態は、ピア・サポートを各都道府県で実施する上でのプロセスを反映している。第 4 期がん対策推進基本計画に関する議論が進んでおり、今回よりロジックモデルを採用することが検討されている。今回、調査をした項目は、ピア・サポートに関する取組みのプロセス評価の指標ともなりうる事項である。今後、今回のような指標を用いて継続的に評価することにより、各都道府県におけるピア・サポートに関する取組みをより細かく検討したり、都道府県ごとの比較が容易になる。

Ⅶ.がん患者に対するピア・サポート体制に関するがん診療連携拠点病院等への調査

改訂委員会　委員長　小川　朝生
国立がん研究センター　先端医療開発センター　精神腫瘍学開発分野

A. 目的

ピア・サポートは、がんを含めた慢性疾患に対する基礎的な心理社会的な支援の一形式である。

がん対策推進基本計画（第 3 期）において、ピア・サポートについて、国が作成した研修プログラムの活用状況に係る実態調査を行い、ピア・サポートが普及しない原因を分析し、研修内容の見直しやピア・サポートの普及を図ることが個別目標に掲げられている。

本事業では、上記の課題に対応するために、研修プログラムの改訂をおこない、各都道府県への情報提供等を進めてきた。

今後、各都道府県がピア・サポートへの支援を進めるうえで、がん診療連携拠点病院と連携を図ることは重要である。がん診療連携拠点病院の新たな整備指針では、がんサロン等においてピア・サポートの積極的な活用が盛り込まれた。しかし、一方でがん診療連携拠点病院においてどの程度ピア・サポートが活用されているのかは把握されていなかった。ここでは、がん診療連携拠点病院におけるピア・サポートの実態を把握し、今後の支援方法を検討することを目的に、がん診療連携拠点病院に対してアンケート調査を実施した。

B. 経過

がん診療連携拠点病院 408 か所のがん相談支援センターを対象に、ピア・サポートに関する取組みについての自記式アンケート調査を実施した。

調査は郵送法にて調査用紙を配布し、2022 年 10 月 5 日(水)～11 月 30 日(水)で回答を依頼した。329 施設より回答を得た(回収率 80.6%)。

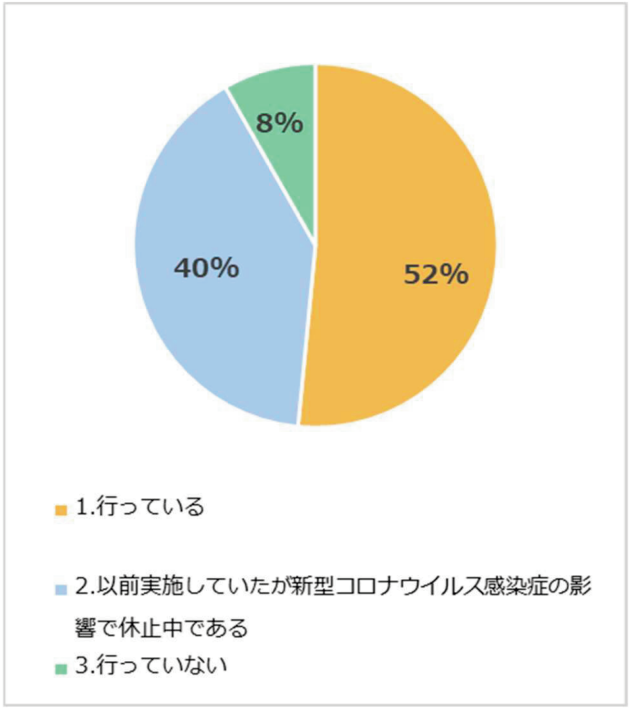
回答結果

アンケートの各項目の結果は以下の通りであった。

(1) がん患者及びその家族を対象とした講演会、レクチャー、がん教室の実施状況

患者･家族を対象とした取組みを行っている・行っていた施設は 9 割にのぼった。新型コロナウイルス感染症の影響により、約半数が中止していた。

(問 1)*貴施設では、がん患者及びその家族を対象とした講演会、レクチャー、がん教室を行っていますか。



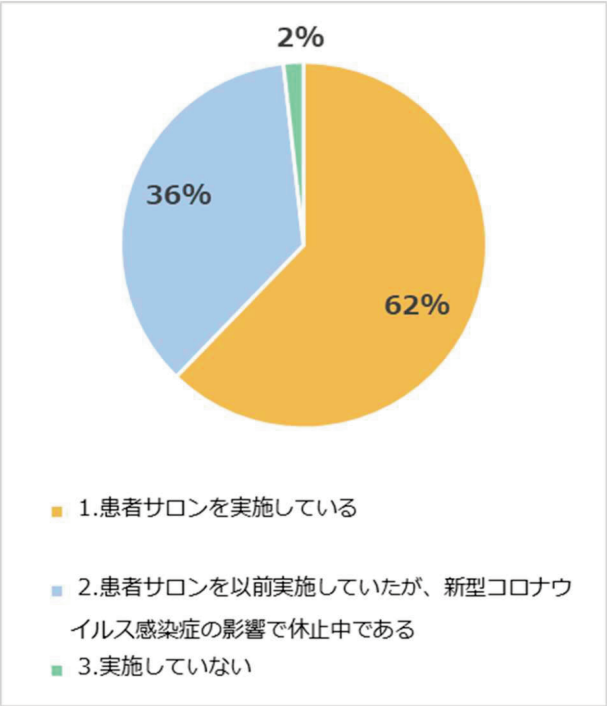
(2) 語り合うための患者サロン等の場の実施状況

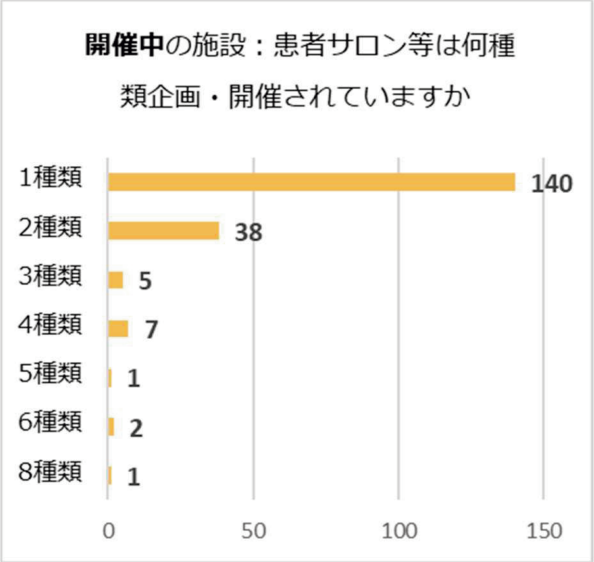
がんサロンを持つがん診療連携拠点病院は 9 割以上であり、約 3 割は新型コロナウイルス感染症の影響により休止していた。

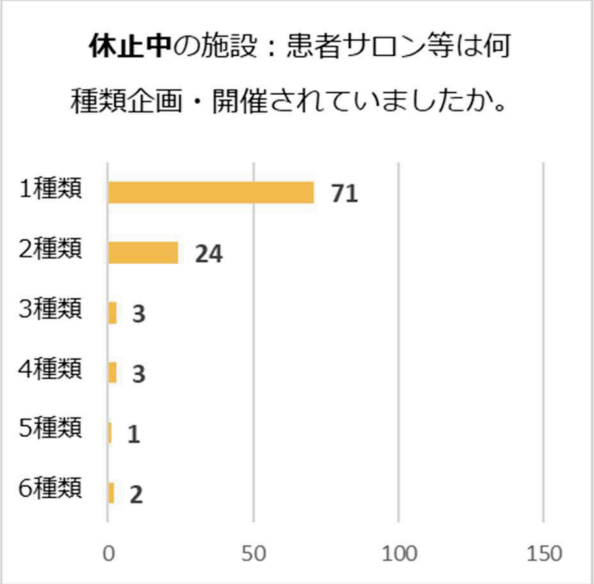
多くの拠点病院では、がんサロンは 1 種類に留まっていた。

(問 2) *貴施設では「がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場」の取り組みは実施されていますか。

ここには「がん患者及びその家族を対象とした講演会、レクチャー、がん教室」は含みません。



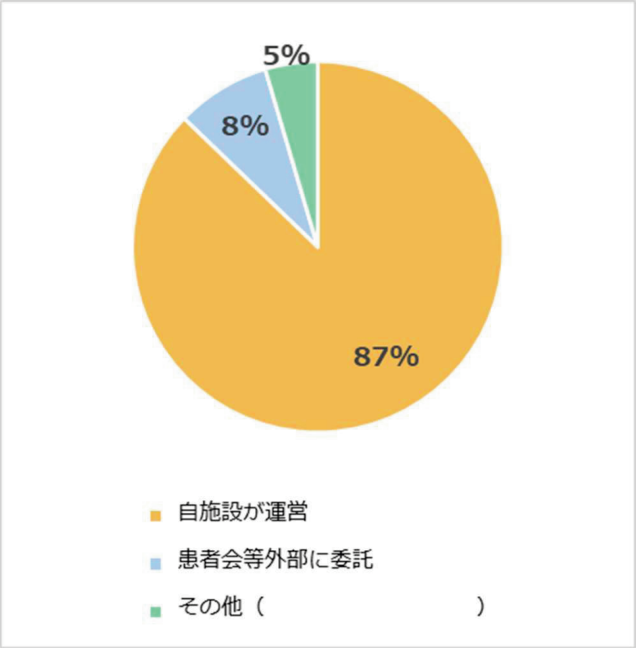




(3) 患者サロンの実施状況① ～運営主体～

がんサロンの運営に関しては、9 割弱の施設が自施設主体で運営していた。

(問 3-1)「がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場」の活動内容について具体的に教えてください。 1：実施主体

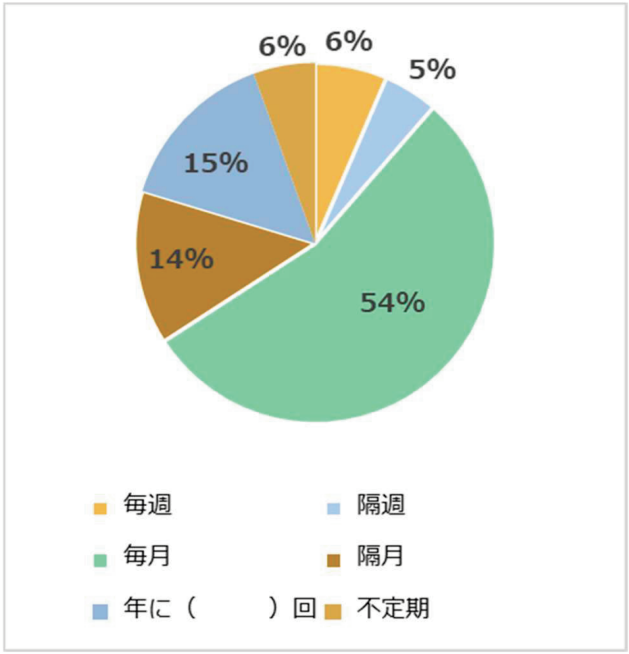


※最も開催頻度の多い患者サロン等の場について回答。開催中、休止中両方含む。

(4) 患者サロンの実施状況② ～実施頻度～

がんサロンの開催頻度は、半数が月 1 回程度であった。

(問 3-2)「がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場」の活動内容について具体的に教えてください。 2：開催頻度

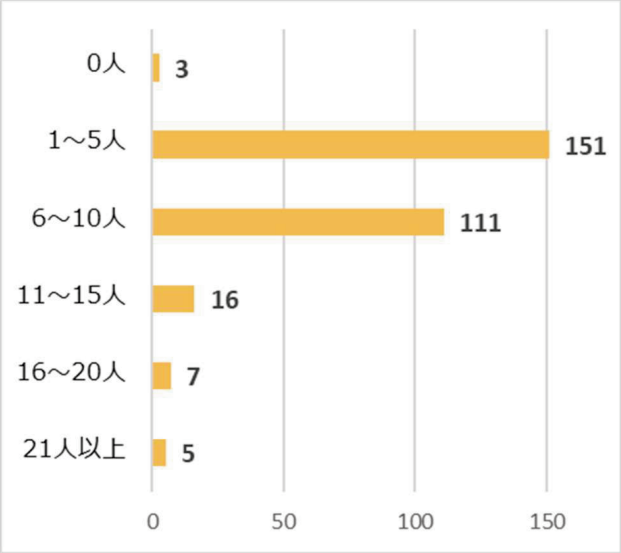


※最も開催頻度の多い患者サロン等の場について回答。開催中、休止中両方含む。

(5) 患者サロンの実施状況③　～参加人数～

がんサロンへの参加者数は、半数が 1-5 人に留まっていた。

(問 3-3)「がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場」の活動内容について具体的に教えてください。 3：参加人数（平均）



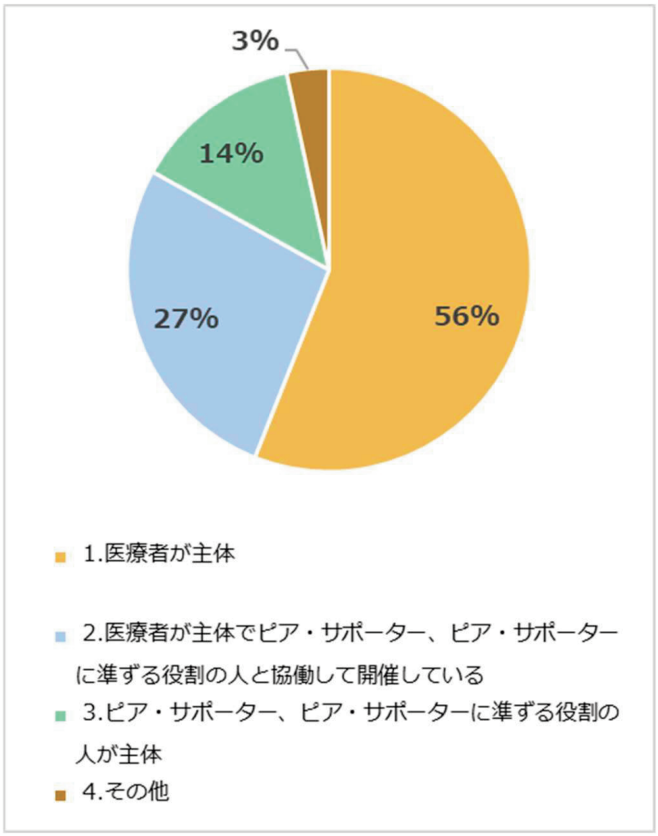
	人数(人)
平均値	6.8
中央値	5

※最も開催頻度の多い患者サロン等の場について回答。開催中、休止中両方含む。

(6) 患者サロンの実施状況④　～運営主体～

がんサロンの運営は、自施設の医療従事者中心が 56%であり、ピア・サポーターとの共同は 27%であった。

(問 4)（問 3）の運営は誰が行っていますか。どれか一つお答えください。

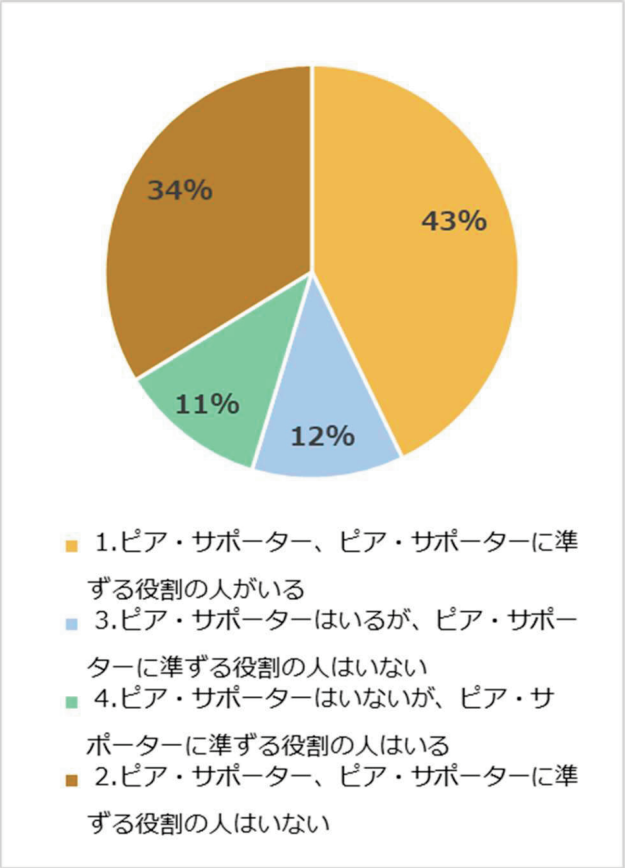


※最も開催頻度の多い患者サロン等の場について回答。開催中、休止中両方含む。

(7) 患者サロンの実施状況⑤　～ピア・サポーターの関わり～

がんサロンにおいて、ピア・サポーターが関わっている施設は約半数に留まっていた。

(問 5)（問 3）の取り組みの中にピア･サポーター、それに準ずる役割の人はいますか。どれか一つお答えください。

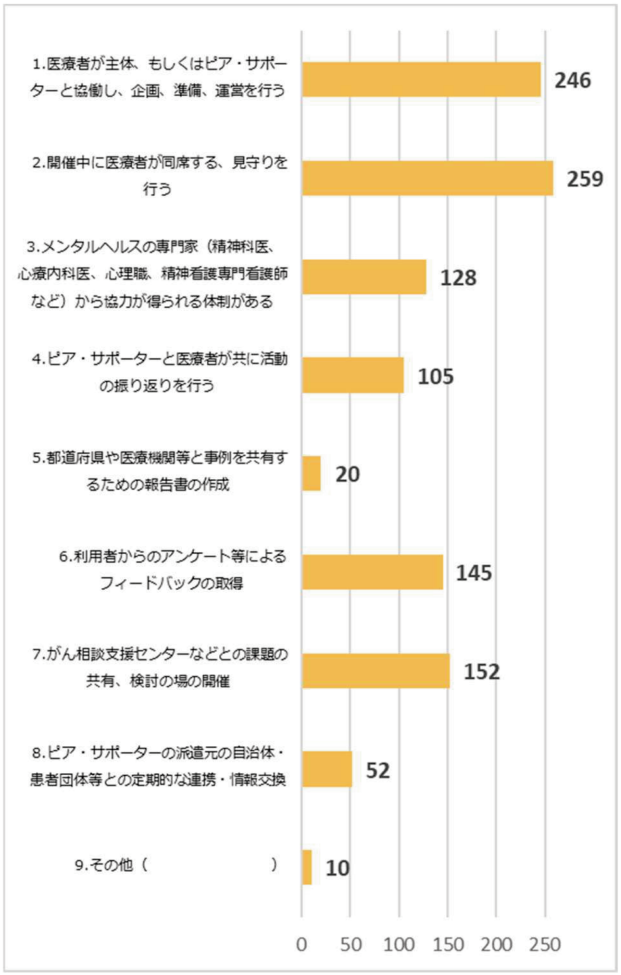


※最も開催頻度の多い患者サロン等の場について回答。開催中、休止中両方含む。

(8) 患者サロンの実施状況⑥　～医療者の関わり～

がんサロンの運営に、医療従事者は企画や運営、開催中の見守りを中心に役割を担うほかに、精神心理の専門家との連携等を行っていた。一方で、ピア・サポーターの振り返りの実施は相対的に少なかった。

(問 6)（問 3）の取り組みに関して、医療職の方のかかわり方について当てはまるものにすべて✓をつけてください。

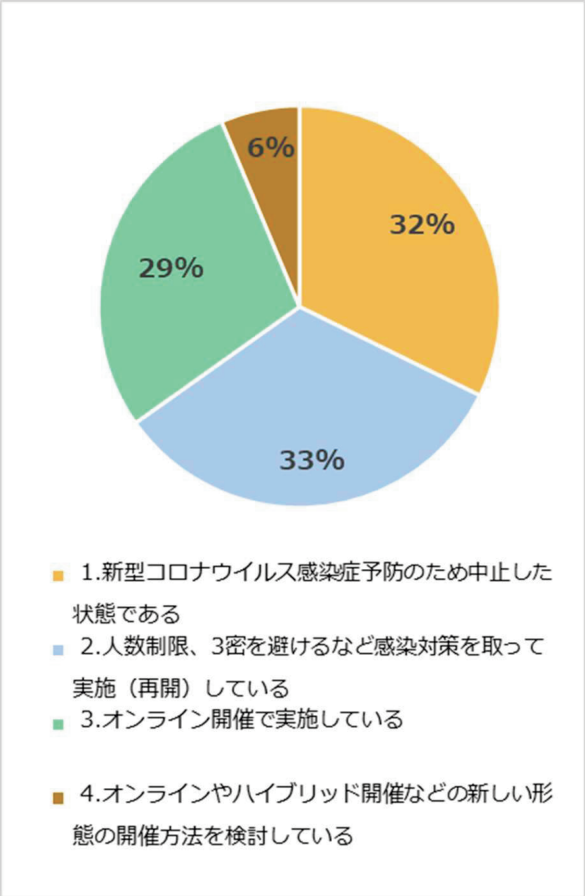


※最も開催頻度の多い患者サロン等の場について回答。開催中、休止中両方含む。

(9) 患者サロンの実施状況⑦　～コロナ禍での対応～

新型コロナウイルス感染症の流行により、医療機関は厳格な感染予防策が求められた。その影響を受け、1/3 は開催できない状況が続いていた。一方で、感染対策を行いつつ何らか運営を工夫して再開した施設が 1/3、オンライン等で開催をした施設も 30%程度あった。

(問 7)（問 3）の取り組みについて、コロナ禍での対応をどれか一つお答えください。

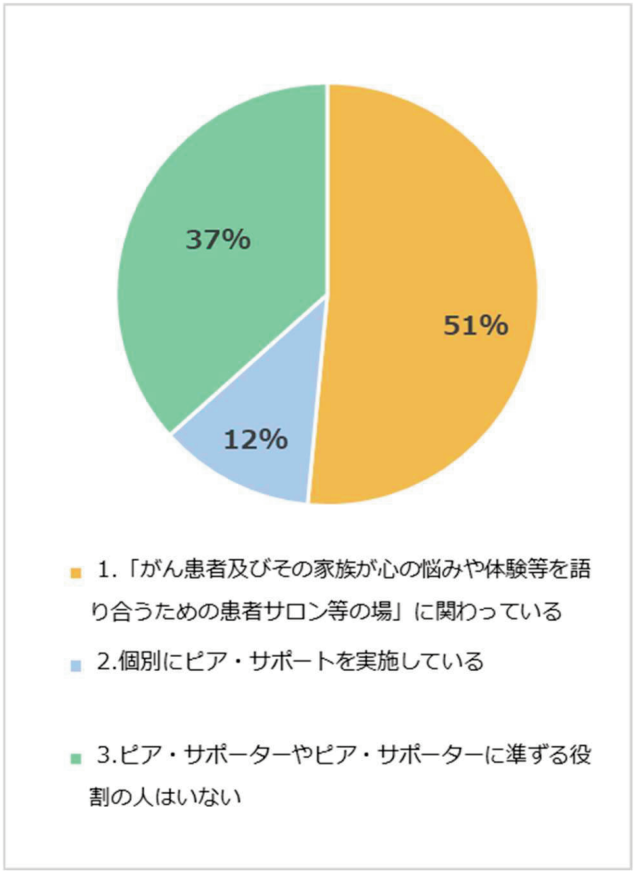


※最も開催頻度の多い患者サロン等の場について回答。開催中、休止中両方含む。

(10) ピア・サポーターの活動①　～施設でのピア・サポーターの活動状況～

がん診療連携拠点病院において、ピア・サポーターががんサロンや対面相談など、なんらかの活動を行っている施設は約半数であった。

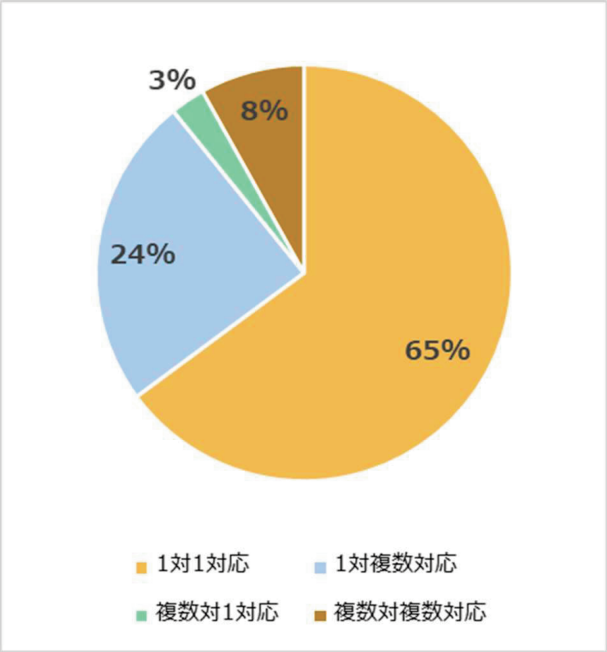
(問 8)*貴施設ではピア・サポーターやピア・サポーターに準ずる役割の人が、「がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場」に関わっていたり、がん患者及びその家族に対してピア・サポートを個別に実施したりしていますか。当てはまるものに✓を入れてください。



(11) ピア・サポーターの活動②　～個別のピア・サポート活動状況～

ピア・サポーターが個別の対応をしている医療機関では、主として 1 対 1 の対面での支援活動であった。

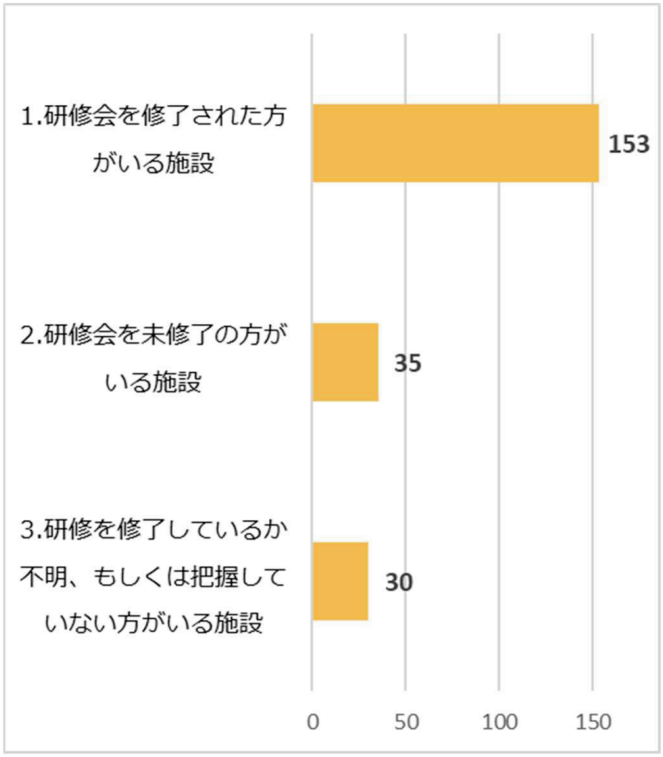
(問 8-2)個別にピア・サポートを実施している。
→相談者(　　)人に対してピア・サポーター(　　)人で対応



(12) ピア・サポーターの活動③　～ピア・サポーター養成研修の修了状況～

がん診療連携拠点病院で活動しているピア・サポーターの内、7 割強は養成研修を終えていた一方、研修を受講していない、あるいは受講したかどうか不明の施設もあった。

（問 9）貴施設のピア・サポーターやピア・サポーターに準ずる役割の人は、ピア・サポーター養成研修会を修了されましたか。当てはまるものにすべて✓を入れてください。



※問 8 で施設にピア・サポーター、ピア・サポーターに準ずる役割の人がいると答えた施設が回答対象

(13) ピア・サポーターの活動④　～活動人数～

がん診療連携拠点病院間でのピア・サポーターの活動人数は、施設間差が大きいものの、2-5 名程度であった。

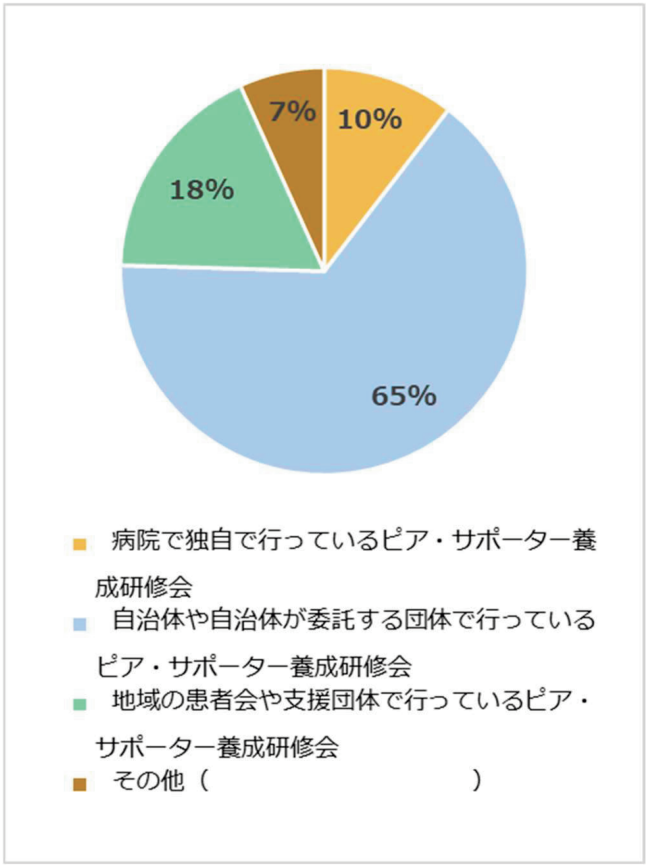
	施設数	1 施設あたりの平均人数（人）※	最大	最小
1. 研修会を修了された方がいる	153	4.6	100	1
2. 研修を未修了の方がいる施設	35	2.0	5	2
3. 研修修了したか不明・把握できていない方がいる	30	3.5	18	1

※不明、人数無記入の施設は含めていない

(14) ピア・サポーターの活動⑤　～研修受講～

ピア・サポーターの養成は、自治体レベルでの研修会を利用している施設が 65%と多く、施設独自での開催・養成は 10%であった。

(問 9)ピア･サポーターのうち、ピア･サポーター養成研修会を修了された方がいる場合→修了者が受講した研修にすべて✓を入れてください。

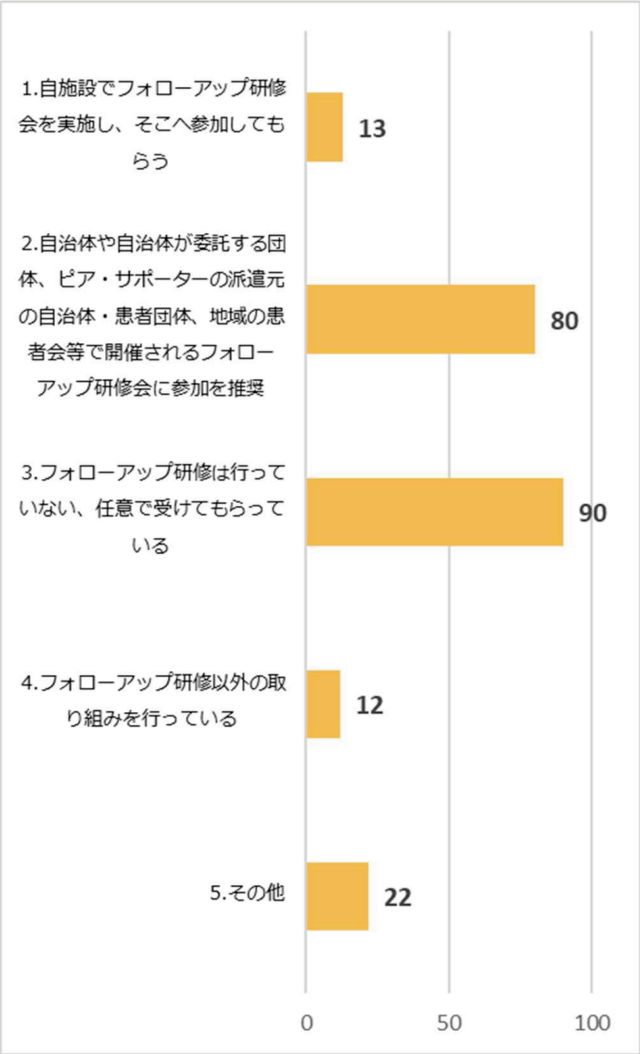


※問 8 で施設にピア・サポーター・ピア・サポーターに準ずる役割の人がいると答えた施設が回答対象

(15) ピア・サポーターの活動⑥　～フォローアップ体制～

がん診療連携拠点病院の約半数は、ピア・サポーターのフォローアップ等質の向上に関する取組みはなかった。

(問 10)貴施設のピア･サポーター、ピア･サポーターに準ずる役割の人へ、質の向上を目指した取り組みは行っていますか。(複数回答可)

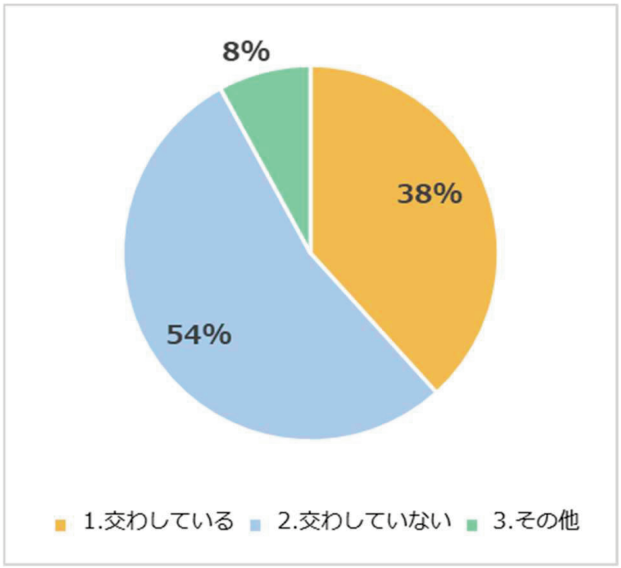


※問 8 で施設にピア・サポーター・ピア・サポーターに準ずる役割の人がいると答えた施設が回答対象

(16) ピア・サポーターの活動⑦　～契約書・覚書～

ピア・サポーターとの連携において、覚え書き等役割や活動を明示している施設は 4 割弱であった。

(問 11)貴施設で実施される患者サロンや個別対応等の活動に関わるピア･サポーターと、何らかの契約書や覚書などを交わしていますか。当てはまるものに✓を入れてください。

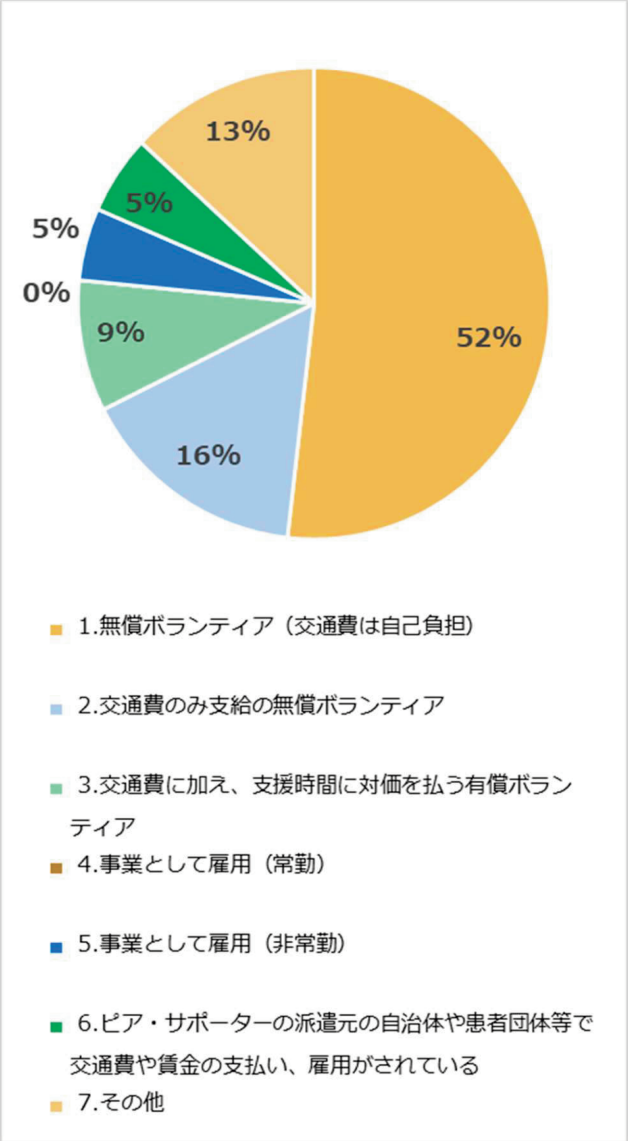


※問 8 で施設にピア・サポーター・ピア・サポーターに準ずる役割の人がいると答えた施設が回答対象

(17) ピア・サポーターの活動⑧　～待遇～

雇用等何らかの対価が支払われている施設は 20%、交通費のみの支給がある施設は 16%であった。

(問 12)貴施設で実施される患者サロンや個別対応等の活動に関わるピア・サポーターは、どのような待遇ですか。当てはまるものにすべてに✓を入れてください。

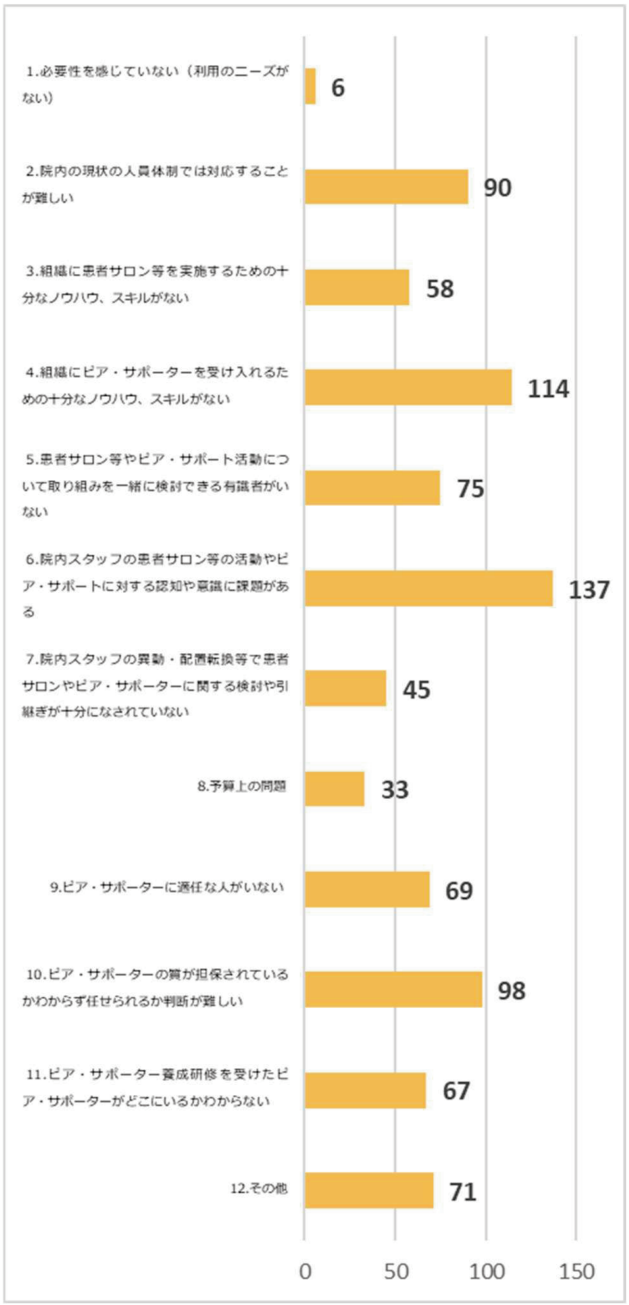


※問 8 で施設にピア・サポーター・ピア・サポーターに準ずる役割の人がいると答えた施設が回答対象

(18) 患者サロン運営・ピア・サポーターとの協働の課題

がん診療連携拠点病院においては、ピア・サポート活動に対する認知が課題として最も多くあがり、受入れる院内体制がその次にあがった。

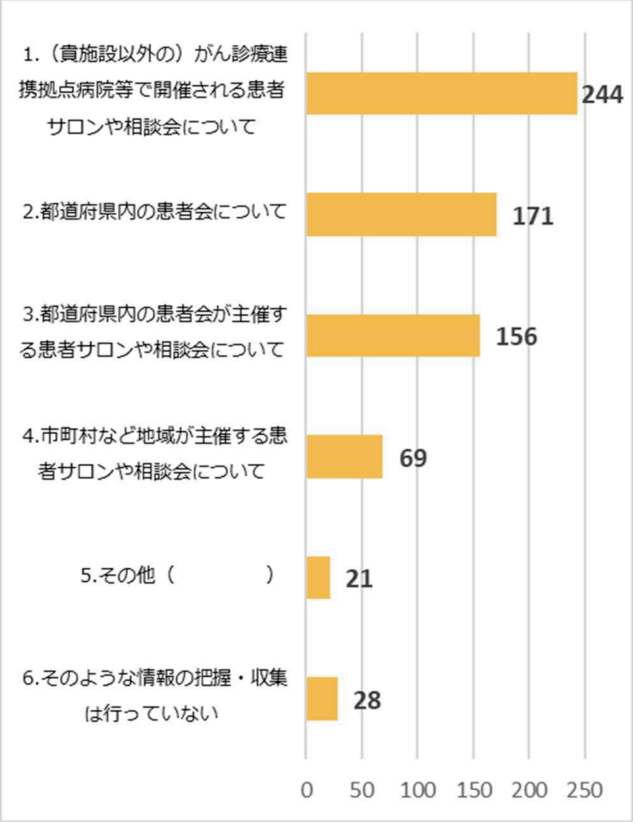
(問 13)「がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場」の運営、ピア・サポーターとの協働について、課題や懸念と感じていることはありますか。(複数回答可)



(19) 他拠点病院等の患者サロン等との連携や情報共有

他のがん診療連携拠点病院での活動や都道府県内の患者会を中心に情報収集は行われていた。

(問 14)*貴施設では、(貴施設以外の)都道府県内拠点病院等の患者サロン等との連携や情報共有、地域の患者会での活動といった情報収集はしていますか。行っている場合、どのような情報を把握しているか、当てはまるものにすべてに✓を入れてください。



C. 考察

がん診療連携拠点病院におけるピア・サポート活動の実態について、横断的な調査を実施した。

今回の調査の主要な結果は下の通りである。

- がん診療連携拠点病院の約 9 割で、がんサロンは開催されていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により、感染予防策が強く求められることから、開催が中止されたままの施設が約 3 割ある一方、感染予防策を行った上での開催やオンライン開催等の対応を進めている施設も広がってきている。
- がん診療連携拠点病院において、ピア・サポーターががんサロンや対面相談など、なんらかの活動を行っている施設は約半数に留まっていた。
- ピア・サポート活動の質の担保やピア・サポーターの燃え尽きを防ぐ上で重要となる開催後のふり返りの実施がなされている施設は約半数に留まっていた。
- ピア・サポーターに対する医療機関内での認識、受入れ体制に関する課題があがった。

第 4 期がん対策推進基本計画に向けて、がん診療連携拠点病院の整備指針の改定が行われ、がんサロン等においてピア・サポーターの活用が盛り込まれた。ピア・サポートは、がん患者・家族への心理社会的支援の基盤を成す活動である。ピア・サポーターの養成は一医療機関で実施するのは難しいことから、行政と医療機関との連携が重要である。しかし、行政とがん診療連携拠点病院がピア・サポートについて検討する場を持っている都道府県は 4 分の 1 にとどまっていること、院内のがんサロンの活動との連携が限られていることが明らかとなった。がん診療連携拠点病院において、ピア・サポーターの受け入れが半数に留まっている背景には、医療機関内でのピア・サポート活動に関する認識が途上であること、そのため、ピア・サポートをどのように実施するのか、整備に関する議論が進んでいないことが考えられる。今後、がん診療連携拠点病院においてピア・サポートの普及とピア・サポーターの活用を進めるうえで、医療従事者に対して、ピア・サポート活動とはどのようなものであるか普及を進め、あわせて、ピア・サポート活動が継続する上で重要となる支援体制についてもそのノウハウを伝達することが求められる。

また、県内のがん診療連携拠点病院間でのがんサロンやピア・サポートに関する情報共有の場は限られている課題もある。これは、ピア・サポートの養成が行政のみで行われがちであること、がんサロンに関しても県レベルでの議論になりにくいこととも関連している。がん診療連携拠点病院間でのピア・サポート活動に関する情報の共有を促す仕組み作りも重要である。

第 4 期がん対策推進基本計画においては、ロジックモデルを採用することが検討されている。今回の調査で用いた指標を活用することで、がん診療連携拠点病院におけるピア・サポートに関する取組みをより細かく検討し、展開を進める上でも役立つ可能性がある。

Ⅷ.資料集

第４期がん対策推進基本計画（案）

※ここに掲載する第 4 期がん対策推進基本計画(案)は、パブリックコメント募集(「がん対策推進基本計画（案)」に係るご意見の募集について(案件番号　495220334))の際に提示された計画案です。正式ながん対策推進基本計画(第４期)は、厚生労働省ホームページ等でご確認ください(令和５年３月下旬予定)。

関連項目抜粋

３.がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

～がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現することで、全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す～

（１）相談支援及び情報提供

①相談支援について

(現状・課題)

がん患者にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び患者同士の体験共有ができる場の存在は重要であることから、国は、都道府県におけるピア・サポーターの養成を推進してきた。また、ピア・サポート活動の質の担保も重要であることから、「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」において、患者団体及び関係学会と連携し、研修プログラム・テキストの改訂、都道府県に対する研修の企画やフォローアップに関する支援を行っているほか、がん患者・経験者、拠点病院等及び都道府県向けの研修等を行っている。令和４（2022）年整備指針改定では、拠点病院等が患者サロン等の場を設ける際に、一定の研修を受けたピア・サポーターの活用に努めることとされた。

一方で、患者体験調査によると、ピア・サポーターについて知っているがん患者の割合は、平成30（2018）年度時点で 27.3%と低い。

治療開始前に病気や療養生活に関して相談することができたと感じる患者の割合、家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じている患者・家族の割合は増加しているが、更なる取組が求められる。

(取り組むべき施策)

国は、拠点病院等と民間団体による相談機関やピア・サポーター等との連携体制の構築について検討する。併せて、相談支援の一層の充実を図るため、ＩＣＴや患者団体、社会的人材リソースを活用し、必要に応じて地方公共団体等の協力が得られる体制整備の方策について検討する。

国は、がん患者がピア・サポーターからの支援を受けやすくなるよう、相談支援等に携わる者からピア・サポーターにつなげるための仕組みについても検討する。

【個別目標】がん相談支援センターやがん情報サービスの認知度及び質を向上させ、精神心理的・社会的な悩みを持つ患者やその家族等が適切な相談支援を受けることができ、また、患者やその家族等、医療従事者等を含む全ての国民が、必要な時に、自分に合った正しい情報にたどりつくことができることを目指す。

がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針

（厚生労働省健康局長通知　令和４年８月１日）

Ⅰ　がん診療連携拠点病院等の指定について

３　都道府県の全ての拠点病院等は、協働して都道府県協議会を設置し、都道府県拠点病院は中心的な役割を担うとともに、他の拠点病院等は都道府県協議会の運営に主体的に参画すること。また、拠点病院等の他、地域におけるがん医療を担う者、行政、患者団体等の関係団体にも積極的な関与を求めること。

〈都道府県協議会の主な役割〉

（２）都道府県全体のがん医療等の質の向上のため、次に掲げる事項を行い、都道府県内のどこに住んでいても適切な診断や治療にスムーズにアクセスできる体制を確保すること。

⑦　当該都道府県内の医療機関における診療、緩和ケア外来、がん相談支援センター、セカンドオピニオン、患者サロン（注３）、患者支援団体、在宅医療等へのアクセスについて情報を集約し医療機関間で共有するとともに、冊子やホームページ等でわかりやすく広報すること。

Ⅱ　地域がん診療連携拠点病院の指定要件について

２　診療体制

（１）診療機能

④地域連携の推進体制

ク　都道府県や地域の患者会等と連携を図り、患者会等の求めに応じてピア・サポート（注 10）の質の向上に対する支援等に取り組むこと。

５　相談支援及び情報の収集提供

（１）がん相談支援センター

相談支援を行う機能を有する部門（以下「がん相談支援センター」という。なお、病院固有の名称

との併記を認めた上で、必ず「がん相談支援センター」と表記すること。）を設置し、①から⑧の体制を確保した上で、がん患者や家族等が持つ医療や療養等の課題に関して、病院を挙げて全人的な相談支援を行うこと。必要に応じてオンラインでの相談を受け付けるなど、情報通信技術等も活用すること。また、コミュニケーションに配慮が必要な者や、日本語を母国語としていない者等への配慮を適切に実施できる体制を確保すること。

⑧がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場を設けること。その際には、一定の研修を受けたピア・サポーターを活用する、もしくは十分な経験を持つ患者団体等と連携して実施するよう努めること。なお、オンライン環境でも開催できることが望ましい。

注３）患者サロン：医療機関や地域の集会場などで開かれる、患者や家族などが、がんのことを気軽に語り合う交流の場をいう。
注 10）ピア・サポート：患者・経験者やその家族がピア（仲間）として体験を共有し、共に考えることで、患者や家族等を支援すること。

がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場の例

患者サロンは、「がん患者やその家族などが集まり、交流や情報交換をする場」のことです。同じ「がん患者サロン」でも、個人的に相談できる場所としてのサロン、毎回固定したメンバーが参加するサロン、講演会などイベントと連動して何十人もが参加するサロンなど活動には幅があります。

ここでは、メンバーを固定せず、医療従事者とピア・サポーターが共同で運営を行い、5～10 名程度のグループで話し合いをするスタイルの「患者サロン」を想定して、事前の準備から当日の運営、振り返りのポイントについて紹介します。

※ここではピア・サポート活動が行われていない、もしくは十分な規模でない地域で、自治体や医療機関(おもにがん診療連携拠点病院)とがん体験者(ピア・サポーター)が協力した患者サロンの運営をどのように進めればよいかについて記載しています。すでに活発な活動が行われている施設についても、自施設の取り組みの目的や内容を見直したり、ピア・サポーターとの協働について考えたりするきっかけとしていただければ幸いです。

1. 準備

● 目的を明確にし、参加者に関する取り決めをする

患者サロンにはがん患者とその家族などが参加します。患者サロンを安全に、有益に運営するため、目的を明確にし、参加者に関する取り決めをしておきましょう。

- ✧ 患者サロンの開催にあたって、ターゲットやスローガン、ゴールをスタッフ間で協議・共有しておきましょう。
- ✧ 参加者に関する取り決めをしておきましょう。（例)病院内の患者サロンではその病院に通院している患者に限る、特定の部位のがん体験者だけ、若い人だけ、家族だけ、遺族だけなど。特定の部位のがん体験者の集まりでは、そのがんに特有の治療や後遺症（例えば、人工肛門や性機能障害）、性別や年代（例えば、女性ならではの悩み）に関する話をしやすくなります。
- ✧ 患者サロンが役に立つかどうかは人それぞれです。参加を強制しないようにしましょう。参加したいと思った時にいつでも参加でき、休みたいと思った時にはいつでも休むことができるようにしておきましょう。ルールとして明文化しておくことも役に立ちます。
- ✧ 当事者不在の病院側だけで内容を決めるのではなく、スタッフの一員として準備段階からピア・サポーターの意見を取り入れた患者サロンにすると、患者のニーズを捉えやすくなります。

● 場所、時間を決める

医療機関内で開催される患者サロンと、医療機関の外で開催される患者サロンがあります。医療機関の 1 室を使う場合は、運営する側からみて、参加者を集めやすい、入院中の患者が参加できる、医療者との連携がとりやすい、運営

費用が少なくてすむといったメリットがあります。参加者側からみると、受診の時に立ち寄れるというメリットがあります。



- ✧ 案内がしやすく、人数に適した空間、会話が筒抜けにならず、感染予防が充分に図れる場所がよいでしょう。窓があり明るい室内、騒々しくない環境が理想的です。椅子や座席の配置なども考慮しましょう。
- ✧ スタッフに無理がなく、参加者の集まりやすい時間帯がよいでしょう。所要時間については、前後の打ち合わせも含めた全体の中で決定しましょう。

- **プログラムを決める**

特定の日（例えば、月に 1 回、週に 1 回など）に開催するのが一般です。語り合いの時間は、2 時間程度としている所が多いようです。前半約 1 時間、後半約 1 時間として、間に 10 分程度の休憩をはさむのもひとつの方法です。

- ✧ 自己紹介や参加した動機などを最初に話してもらうとよいでしょう。参加者の不安や緊張をほぐすため、「アイスブレイク」を取り入れる方法もあります。
- ✧ テーマを決めて語り合う方法をとる所もあれば、テーマを決めずに自由に語り合う方法をとっている所もあります。
- ✧ 参加人数によっては、グループ分けをするのもよいでしょう。1 グループ 5～10 人程度にすると、1 人当たりの発言機会も増え、また仲間の話をじっくり聴くこともできます。最初からグループ分けをする方法もあれば、途中からグループ分けをする方法もあります。

- **役割分担を決める**



- ✧ 患者サロンを主催する運営者、運営を手伝う人、進行役、参加者として語り合いに加わる人などが、スタッフとして患者サロンの開催に関わります。患者サロンの形式によっては、発言時間を計測するタイムキーパーや受付係、そのほかの役割をもつ人がいる場合もあります。
- ✧ ピア・サポーターが患者サロンの進行を担うのか、それとも、単に一参加者として参加するのか、ピア・サポーターの役割について共通認識を持っておきましょう。一参加者として参加するのであれば、場をわきまえた発言を心掛けたり、サロンに慣れていない方が話しやすくなるように体験や気持ちを語って、会話が活気づく糸口を作ったりすることなどを意識しておくことができます。事前に確認できると、医療者、ピア・サポーターが共に、安心してがんサロンに参加できます。
- ✧ ピア・サポーターが進行を担うのであれば、医療者はどのような形で参加するのか（例えば、同室にいるかいないかなど）、ピア・サポーターが困ったときにどういったサポートをお願いできるかあらかじめ確認しておきましょう。
- ✧ ピア・サポーターを含めた患者同士の話し合いの流れが良い時は、ピア・サポーターに進行をお願いすることも検討しておくとよいでしょう。

- **広報活動を行う**

患者サロンの意義、内容、開催場所、開催日時などを多くの人に知ってもらう広報活動も重要です。

【広報の例】

- ✧ ポスターやチラシの作成・掲示・配布
- ✧ 新聞・地域情報誌・Web サイトなどへの情報掲載
- ✧ 医療者に患者サロンの存在を認知してもらい、患者や家族に患者サロンを紹介してくれるように依頼をする。
- ✧ ピア・サポーターは、院内・院外で他の患者会との交流や繋がりがあります。ピア・サポーターにも患者サロンの広報を手伝ってもらいましょう。

- **その他**

物品（名札、手指消毒アルコールなど）の準備や、申し込み方法、当日の欠席連絡の方法などについても決めておきましょう。

- **オンラインで開催する場合**

- ✧ 参加方法、サロンの目的、ルール、注意事項などはメールをしておくなど事前に説明し、同意を得ておきましょう。
- ✧ 通信トラブル時の対処方法をあらかじめ伝えておきましょう。
- ✧ マイク、カメラのオンオフなど具体的にルールを設定しておきましょう。
- ✧ 特に運営やグループの進行役はオンライン会議ソフト、カメラ、マイク操作に慣れておきましょう。
- ✧ 入室時は名前で本人確認をします。名前(本名)を知られたくない方は、申し込みの際に入室時用のニックネームを聞いておくとよいでしょう。

- **当日準備**

当日、手伝ってくれるスタッフに早めに集合してもらい、準備をする必要があります。ピア・サポーターもスタッフの一員として準備段階から参加してもらい、患者視点からの意見を取り入れて準備しましょう。

【準備の例】

- ✧ 準備のためのミーティング
- ✧ 机や椅子の移動、受付の設置
- ✧ 会場へ誘導するための案内の掲示
- ✧ 使用機器の用意
- ✧ 配布する資料の用意
- ✧ ピア・サポーターの座る位置の確認（グループの進行役(ファシリテーター)とアイコンタクトができる位置など）



- **受付**

初めて参加する方などへは、初期不安（緊張や不安）を和らげるために、受付入口にピア・サポーターの方に立ってもらい受付まで誘導してもらいましょう。受付では挨拶を交わし、特に初めての参加者に対しては、「初めてですか」「どこで会のことをお知りになりましたか」といった会話をしながら、参加者に会の流れを説明するとよいでしょう。この時、名前や住所を記入してもらうか否かは、患者サロンの運営方針によって異なります。名札やネームプレートを使う場合は、ニックネームも可としている所があります。名札やネームプレートを使う場合、色によって患者本人か家族か、さらにはがん種も分かるように工夫している所もあります。

2. 患者サロンを始める

進行役が語り合いを始めることを宣言します。初めての参加者や久しぶりの参加者がいる場合、ここで改めてルールの説明をしておくのもひとつの方法です。患者サロンによっては、毎回ルールの説明をしている所もあります。

【開始の例】

- ✧ 挨拶、体調などの確認を行いましょう。
- ✧ ルール（守るべきこと、個人情報の扱いなど）について説明しましょう。
- ✧ 主旨や目的が明確な場合は、それらを提示しましょう。
- ✧ 開始時刻と終了時刻を案内しましょう。
- ✧ 可能であれば、前回からの流れを簡単に伝えましょう。
- ✧ ピア・サポーターを知らない参加者もいるため、ピア・サポーターの説明をしておきましょう。
- ✧

3. 患者サロンでのやり取り

進行役はどのような順序で話をしてもらうかを伝えましょう。

【グループの進行役の役割】

- ✧ タイムキーパー
- ✧ 脱線をもどす（ピア・サポーターでも可能です）
- ✧ 参加者から言葉を引き出し、参加者間での相互作用をひきだす
- ✧ 流れの中でピア・サポーターに進行を任せることができそうであれば後方支援にまわる
- ✧ グループ全体を見渡す「総合プロデューサー」の役割
- ✧ 参加者の中で感情が大きく現れてしまった方がいた場合、誰がどのようにフォローするか事前に確認しておきましょう。



【グループ内（語り合いの場）でのピア・サポーターの役割】

- ✧ ピア・サポーターは支援する側として医療者と相補的な感覚で参加しています。積極的にピア・サポーターを活用しましょう。
- ✧ 自己紹介で口火を切ってもらうと、自己紹介のお手本になり、どんな風に体験を語るかの手本になります。また参加者全体が口を開くきっかけになります。
- ✧ ピア・サポーターがその場にいるだけで、「治った人がいるんだ」「こうやって病気と付き合っていくんだ」と感じる方もおられます。
- ✧ ピア・サポーターは多くの患者と出会っているため、話を聴く中で自分の体験がより豊かになっています。その体験は自分と合わなくても、「他の患者はこんなことをしていました」と、自分の体験以外のこと話すことができるのがピア・サポーターです。重い話や難しい話であっても積極的にピア・サポーターに話を振ると良いでしょう。

4. 患者サロンを終える

語り合いの場では、死と向き合う恐怖、身体の不調や人間関係の悩みなどが話題にのぼることもあるため、会の最後に気持ちを切り替える時間をもつようにしている所もあります。具体的には、次回の開催のお知らせや勉強会、イベントのお知らせなどを運営者が話すことで、語り合いの会から日常へ戻るつなぎの時間とすることができます。

ピア・サポーターは、医療者ではわかりにくい「今この状態の時にこの話を言うと不安や傷つきになる」ということをわきまえており、知っていても言わないことがあります。しかし、患者サロンの中で他の参加者からそのような話が出た場合は、サポートグループが終えた後、ピア・サポーターに積極的にフォローをお願いするよう事前に打ち合わせしておきましょう。サポートグループを終えても、そこでの体験を引きずってる方もいるため、クールダウンのためにも、すぐに片付けなどおこなわず、ピア・サポーターには積極的に声かけをおこなってもらいましょう。

【終了の例】

- ✧ 継続参加を促すため、次回の開催案内や変更点などを案内するとよいでしょう。
- ✧ 手指消毒などの感染予防対策の再確認。スタッフ、参加者の体調確認を行いましょう。

5. 振り返り

振り返りは後片づけのあとに、ピア・サポーター含め運営を手伝ったスタッフ全員で行うものです。語り合いの内容をみんなで確認・共有したり、運営の改善点について話し合ったりします。また、スタッフの気持ちを切り替えるための時間としても大切です。なお、当日の振り返りとは別に、近隣の患者サロンとの情報交換の機会をもつと、運営のヒントになると思います。

【振り返りの例】



- ✧ 語り合いの内容を確認、共有。
- ✧ 運営の改善点・反省点を確認、共有（例：参加者が満足していたか、初めて参加した

人がなじめていたか、運営や進行は適切だったかなど）

- ✧ スタッフの負担をおろし、気持ちを切り替える時間
- ✧ 記録を残すかはサロンの判断ですが、改善点については記録しておくとよいかもしれません。『ピア・サポーター養成テキスト 2020 年度版』p.30～33 の「実際に使われているピア・サポート活動の記録用紙」を参考にしてみてください。
- ✧ ピア・サポーターは、自分は役に立てたのか、しっかり対応できていたのかなど不安になります。「ここが悪かった」「あの場面ではこうしたほうが良かった」と伝えるよりは、できていることや良かった点を伝え、ピア・サポーターとしての成長を促すような対応をしましょう。
- ✧ 参加者の中からピア・サポーターに向いている方などをリクルートする際、医療者だけでは決めずにピア・サポーターの意見も参考にしましょう。
- ✧ ピア・サポーター研修では様々な立場の方が参加しています。患者サロンのメンバーや内容などから、その特性に合ったピア・サポーターを派遣してもらうなど、ピア・サポーターから患者視点での意見を聞いてみるのもよいかもしれません。

その他

- ✧ 患者サロンに参加しても、全員が満足を得て帰るわけではありません。求めているものと違っていると思ったり、何となくなじめないものを感じたりする参加者もいます。場合によっては、参加したことによってかえって孤独感を深めたり、不安が増したりする人もいます。
- ✧ 患者サロンの中ではルールを守るよう促せますが、患者サロンの外での出来事については、手の打ちようがない場合もあります。例えば、個人的に連絡先を交換して参加者同士のトラブルになる、民間療法や宗教活動の勧誘をしてしまうなどです。すべての参加者のニーズに合わせることができない、トラブルを完全に防ぐことはできないというのは、ピア・サポートに関わらずこのような活動の限界ともいえます。ピア・サポート活動に携わるスタッフ、連携する医療者はこれらを理解して活動しましょう。
- ✧ 参加者のニーズに合わない時に他の支援を紹介できる、ルールを明文化し常に示し誤解を防ぐなど、可能な範囲での対応は行いましょう。
- ✧ ピア・サポーターはがん経験者です。この活動の意味を理解していても、参加者の訃報などで「このような活動をしなければこんな辛い体験をしなくて済んだのに」と思うこともあります。その辛い気持ちを吐き出せる場があり、そして理解してくれる人がいることはピア・サポーターの活動継続の要因となるでしょう。

参考文献

・『ピア・サポーター養成テキスト』 2020 年度版
・『がんサポートプログラム企画の手引き』 2022 年度版
・『自治体／がん診療連携拠点病院等向け　ピア・サポートを推進するための手引き』
・平成 25 年度　がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業　研修テキスト『がんサロン編　よりよいグループサポートを進めるために』

がんサポートグループ企画運営者のための研修会 フライヤー

厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業

がん相談支援に携わる医療者必見

がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会

参加費 無料

現在、がん診療連携拠点病院では、医療者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援が求められ、すでにさまざまな取り組みがされています。それらが施設のがん患者とその家族のニーズに適した支援となっているよう、質の向上を図ることが重要です。

本研修は、がんサポートグループの基本的な知識や技術を講義や動画、ロールプレイを通して実践的に学習できます。またグループワークでは、各施設のサポートグループの課題を共有し、解決策を検討します。がん患者と家族が自分らしく暮らせるためのより最適で効果的なサポートグループの企画・運営をめざしましょう。

日時 2022年11月3日 木・祝 10:00~17:00

定員 90名 応募者多数の場合は選考

開催方法 ハイブリッド開催
会場 東京秋葉原UDXカンファレンス（JR秋葉原駅徒歩2分）
WEB Zoomミーティングを使用

対象 がん診療連携拠点病院等で がん相談支援に携わる医療者
講義・実践編の両方参加できる方および事前評価アンケートを提出できる方

看護師、 MSW、 心理職、 医師、 薬剤師等

申込方法 WEB上でお申込ください。
URL https://ws.formzu.net/dist/S4641802/
申込期間 2022年8月30日(火)～9月28日(水) 17：00

お申込・お問い合わせ先

厚生労働省委託事業
がん総合相談に携わる者に対する研修事業
日本サイコオンコロジー学会 委託事業事務局

Tel 04 - 7134 - 6986
URL https://www.peer-spt.org/
Mail info@peer-spt.org

厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業　**がんサポートグループ企画・運営者のための研修会**

申込期間

2022年 8月30日(火)～
9月28日(水) 17:00

申込方法

- インターネットでの申込をお願いいたします。
  以下URLまたはQRコードからお申込ください。
  https://ws.formzu.net/dist/S4641802/
- 受付完了メールが届かない場合は、お手数ですが
  info@peer-spt.org にご連絡ください。

申込は
こちらから

研修前～当日のプログラム

01 評価編　研修前 10/5-10/21

- 自施設の取り組み
  振り返りのアンケート

02 講義編　11/3(木・祝) 10:00～12:00

- がん患者の心理社会的支援
- がんサポートグループとは
- がんサポートグループの方法：
  形態や目的
- ファシリテーションの基本スキル
- 多様なニーズへの対応
  （起こり得る事例）
- ピアサポーターとの協働 等

03 実践編　11/3(木・祝) 13:00～17:00

- 基本的なコミュニケーションスキル
- 動画で学ぶ
  ファシリテーションの実際
- ロールプレイ
  （ファシリテーター体験）
- 企画・運営に関するグループワーク

留意事項

- 応募者多数の場合は選考を行います。結果を申込時のメールアドレス宛に選考結果を連絡しますので @east.ncc.go.jp からのメールが受け取れるように設定をお願いします。
- 修了証を全員に発行いたします（会場での出席・Zoomの視聴記録から、講義編・実践編（ロールプレイ）両方の出席が確認できた方に限ります）。
- 新型コロナウイルス感染の拡大状況等により開催内容･形式の変更の可能性があります。

WEB参加希望の方へ

- 研修会当日、ご自身でインターネット・Zoomにお繋ぎください。接続に関するサポートは行いませんので予めご了承ください。
- インターネットの接続環境が安定した状態で参加されることを推奨します。
- 同一施設から複数人で申し込まれた場合、1人ずつの申込、当日は1人1端末での参加をお願いいたします。
- 機器の貸出等は行っておりません。ご自身でのご準備をお願いいたします。

現地参加希望の方へ

- 会場では、マスク着用･手指消毒の上、他の参加者との会話は控えめにお願いいたします。
  また、当日会場にて検温を実施いたします。予め風邪等の症状がある方は参加をお控えください。

会場「東京秋葉原UDXカンファレンス」へのアクセス

- JR秋葉原駅　電気街口より徒歩2分
- 東京メトロ日比谷線　秋葉原駅2番出口より徒歩4分
- つくばエクスプレス　秋葉原駅A1出口より徒歩3分
- 東京メトロ銀座線 末広町駅　1番または3番出口より徒歩3分

お申込・お問い合わせ先

厚生労働省委託事業
がん総合相談に携わる者に対する研修事業
日本サイコオンコロジー学会 委託事業事務局

Tel 04 - 7134 - 6986
URL https://www.peer-spt.org/
Mail info@peer-spt.org

厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業

がん相談支援に携わる医療者必見

がんサポートグループ企画・運営者のための研修会

参加費 無料

現在、がん診療連携拠点病院では、医療者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援が求められ、すでにさまざまな取り組みがされています。それらが施設のがん患者とその家族のニーズに適した支援となっているよう、質の向上を図ることが重要です。

本研修は、がんサポートグループの基本的な知識や技術を講義や動画、ロールプレイを通して実践的に学習できます。またグループワークでは、各施設のサポートグループの課題を共有し、解決策を検討します。がん患者と家族が自分らしく暮らせるためのより最適で効果的なサポートグループの企画・運営をめざしましょう。

日時 2023年2月11日 土・祝 10:00~17:00

定員 90名 応募者多数の場合は選考

開催方法 ハイブリッド開催
会場 AP大阪淀屋橋 （御堂筋線「淀屋橋駅」北改札より徒歩約3分）
WEB Zoomミーティングを使用

対象 がん診療連携拠点病院等で
がん相談支援に携わる医療者
講義・実践編の両方参加できる方および事前評価アンケートを提出できる方

看護師、 MSW、 心理職、
医師、 薬剤師等

申込方法 WEB上でお申込ください。
URL https://ws.formzu.net/dist/S39780270/
申込期間 2023年1月4日(水) 17：00まで

お申込・お問い合わせ先

厚生労働省委託事業
がん総合相談に携わる者に対する研修事業
日本サイコオンコロジー学会 委託事業事務局

Tel 04 - 7134 - 6986
URL https://www.peer-spt.org/
Mail info@peer-spt.org

厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業　**がんサポートグループ企画・運営者のための研修会**

申込期間

2023年 1月4日(水) 17:00 まで

申込方法

- インターネットでの申込をお願いいたします。
  以下URLまたはQRコードからお申込ください。
  https://ws.formzu.net/dist/S39780270/
- 受付完了メールが届かない場合は、お手数ですが
  info@peer-spt.org にご連絡ください。

申込は こちらから

研修前～当日のプログラム

01 評価編　研修前 1/13 - 1/29

- 自施設の取り組み
  振り返りのアンケート

02 講義編　2/11(土・祝) 10:00～12:00

- がん患者の心理社会的支援
- がんサポートグループとは
- がんサポートグループの方法：
  形態や目的
- ファシリテーションの基本スキル
- 多様なニーズへの対応
  （起こり得る事例）
- ピアサポーターとの協働 等

03 実践編　2/11(土・祝) 13:00～17:00

- 基本的なコミュニケーションスキル
- 動画で学ぶ
  ファシリテーションの実際
- ロールプレイ
  （ファシリテーター体験）
- 企画・運営に関するグループワーク

留意事項

- 応募者多数の場合は選考を行います。結果を申込時のメールアドレス宛に選考結果を連絡しますので @east.ncc.go.jp からのメールが受け取れるように設定をお願いします。
- 修了証を全員に発行いたします（会場での出席・Zoomの視聴記録から、講義編・実践編（ロールプレイ）両方の出席が確認できた方に限ります）。
- 新型コロナウイルス感染の拡大状況等により開催内容・形式の変更の可能性があります。

WEB参加希望の方へ

- 研修会当日、ご自身でインターネット・Zoomにお繋ぎください。接続に関するサポートは行いませんので予めご了承ください。
- インターネットの接続環境が安定した状態で参加されることを推奨します。
- 同一施設から複数人で申し込まれた場合、1人ずつの申込、当日は1人1端末での参加をお願いいたします。
- 機器の貸出等は行っておりません。ご自身でのご準備をお願いいたします。

現地参加希望の方へ

- 会場では、マスク着用・手指消毒の上、他の参加者との会話は控えめにお願いいたします。
- 風邪等の症状がある方は参加をお控えください。

会場「AP大阪淀屋橋」へのアクセス

- 地下鉄御堂筋線　淀屋橋駅北改札より徒歩約3分
- 京阪本線　淀屋橋駅中央改札口より徒歩約2分
- 地下鉄堺筋線　北浜駅北改札より徒歩約5分

お申込・お問い合わせ先

厚生労働省委託事業
がん総合相談に携わる者に対する研修事業
日本サイコオンコロジー学会 委託事業事務局

Tel　04 - 7134 - 6986
URL　https://www.peer-spt.org/
Mail　info@peer-spt.org

厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業

がんサポートグループ企画・運営者のための研修会　修了者向け

参加費 無料

がんサポートグループ企画・運営者のための フォローアップ研修会

日時 2022年11月23日（水・祝） 13:00～17:00

開催方法 全面オンライン開催
Zoomミーティングを使用

定員 60名（予定）

対象 2020～2021年度に3回開催された（2021年2月11日、2021年11月3日、2022年2月11日）
「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」の修了者

研修内容（予定）
- ピアサポーターとの協働　好事例の紹介
- 事例検討（グループワーク）
- 情報交換（グループワーク）

申込方法
WEBからお申込みください。
URL　https://ws.formzu.net/dist/S91175413/
申込期間　2022年11月11日（金）17：00まで

お申し込み・お問い合わせ先

厚生労働省委託事業
がん総合相談に携わる者に対する研修事業
日本サイコオンコロジー学会 委託事業事務局

Tel　04 - 7134 - 6986
URL　http://www.peer-spt.org/
Mail　info@peer-spt.org

Ⅸ.委員会名簿

(1)改訂委員会　　◎は委員長(以下 50 音順)

◎小川　朝生	国立がん研究センター　先端医療開発センター　精神腫瘍学開発分野　分野長
天野　慎介	一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン　理事長
佐々木　治一郎	北里大学病院　集学的がん診療センター　センター長
松本　陽子	NPO 法人　愛媛がんサポートおれんじの会　理事長
若尾　文彦	国立がん研究センター　がん対策研究所　事業統括
渡邉　眞理	湘南医療大学　保健医療学部　看護学科　教授

(2)ピア・サポート養成研修ワーキンググループ　　●は WG 委員長（以下 50 音順)、*は兼任

●秋月　伸哉	がん・感染症センター　東京都立駒込病院　精神腫瘍科・メンタルクリニック　部長
倉田　明子	広島大学病院　精神科　診療講師
齋藤　円*	市立ひらかた病院　精神科　部長
桜井　なおみ	一般社団法人　ＣＳＲプロジェクト　代表理事
野田　真由美	NPO 法人　支えあう会　「α」　副理事長
吉田　稔*	日本赤十字社熊本健康管理センター　所長

(3)短期サポートグループワーキンググループ　　●は WG 委員長(以下 50 音順)、*は兼任

●平井　啓	大阪大学大学院　人間科学研究科　准教授
市原　香織	淀川キリスト教病院　がん看護専門看護師
齋藤　円*	市立ひらかた病院　精神科　部長
松向寺　真彩子	市立豊中病院　公認心理師
福井　里美	東京都立大学　人間健康科学研究科　看護科学域　准教授 認定 NPO 法人　がんサポートコミュニティ
古谷　浩	精巣腫瘍患者友の会Ｊ－ＴＡＧ　共同代表
山田　麻記子	東京医科歯科大学医学部附属病院　がん相談支援センター 医療ソーシャルワーカー
吉田　稔*	日本赤十字社熊本健康管理センター　所長

令和 4 年度　厚生労働省委託事業

がん総合相談に携わる者に対する研修事業

〈改訂委員会〉

［委員長］ **小川　朝生**　国立がん研究センター先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野　分野長

［委　員］ **天野　慎介**　一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン　理事長

［委　員］ **佐々木治一郎**　北里大学病院集学的がん診療センター　センター長

［委　員］ **松本　陽子**　NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会　理事長

［委　員］ **若尾　文彦**　国立がん研究センター　がん対策研究所　事業統括

［委　員］ **渡邉　眞理**　湘南医療大学　保健医療学部　看護学科　教授

〈ピア養成研修ワーキンググループ〉

［グループ長］ **秋月　伸哉**　がん･感染症センター 東京都立駒込病院　精神腫瘍科･メンタルクリニック 部長

［グループ員］ **桜井なおみ**　一般社団法人 CSR プロジェクト　代表理事

［グループ員］ **倉田　明子**　広島大学病院　精神科　診療講師

［グループ員］ **齋藤　　円**　市立ひらかた病院　精神科　部長

［グループ員］ **野田真由美**　NPO 法人支えあう会 「α」 副理事長

［グループ員］ **吉田　　稔**　日本赤十字社熊本健康管理センター　所長

〈短期サポートグループワーキンググループ〉

［グループ長］ **平井　　啓**　大阪大学大学院　人間科学研究科　准教授

［グループ員］ **市原　香織**　淀川キリスト教病院　がん看護専門看護師

［グループ員］ **齋藤　　円**　市立ひらかた病院　精神科　部長

［グループ員］ **松向寺真彩子**　市立豊中病院　公認心理師

［グループ員］ **福井　里美**　東京都立大学大学院 人間健康科学研究科看護科学域 准教授/認定 NPO 法人がんサポートコミュニティ

［グループ員］ **古谷　　浩**　精巣腫瘍患者友の会 J-TAG 共同代表

［グループ員］ **山田麻記子**　東京医科歯科大学医学部附属病院　医療ソーシャルワーカー

［グループ員］ **吉田　　稔**　日本赤十字社熊本健康管理センター　所長

令和 4 年度　厚生労働省委託事業

がん総合相談に携わる者に対する研修事業　事業報告書

［発　行］ 2023 年 3 月 25 日

［発行元］ 一般社団法人日本サイコオンコロジー学会
がん総合相談に携わる者に対する研修事業　事務局
〒 277-8577　千葉県柏市柏の葉 6-5-1
国立研究開発法人　国立がん研究センター　先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野内
TEL：04-7134-6986　FAX：04-7134-7026

［製作者］ 株式会社 青海社

［DTP/印刷］ 株式会社 真興社